

平成24年度

市原市内遺跡発掘調査報告

こおりもと

郡本遺跡群 第15次

こおりもと

郡本遺跡群 第16次

きみづか

君塚クワノ木古墳

いちはらじょうあと もんぜん

市原城跡 門前地区

やまくらまえはた

山倉前畑遺跡 第2地点

たつみだい

辰巳台遺跡群 第2地点

きくま

菊間遺跡群 深道地区C地点

いちはらじょうあと つじ

市原城跡 辻地区第2地点

さんしん

山新遺跡 永津前地区

2013

市原市教育委員会

平成24年度

市原市内遺跡発掘調査報告

こおりもと

郡本遺跡群 第15次

こおりもと

郡本遺跡群 第16次

きみづか

君塚クワノ木古墳

いちはらじょうあと もんぜん

市原城跡 門前地区

やまくらまえはた

山倉前畑遺跡 第2地点

たつみだい

辰巳台遺跡群 第2地点

きくま

菊間遺跡群 深道地区C地点

いちはらじょうあと つじ

市原城跡 辻地区第2地点

さんしん

山新遺跡 永津前地区

2013

市原市教育委員会

序 文

千葉県市原市は、房総半島のほぼ中央に位置し、温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれております。そのため、有史以来多くの人々の生活がこの地で営まれ、郷土の歴史が育まれてきました。縄文時代の大貝塚群をはじめ、「王賜」銘鉄剣や史跡上総国分寺跡、飯香岡八幡宮本殿など各時代を代表する数々の文化遺産は、これら先人の足跡を今に伝えています。

本市は、昭和30年代後半から石油化学を中心とする企業が湾岸の埋立地へ進出してきたことにより、それまで農業・漁業を中心としてきた社会経済構造は大きく変化し、人口の増加と都市化が急速に進展しました。このような中、先人達の残した貴重な文化財を保護・保存するために、各種の調査を実施しています。

本報告書は、平成24年度に国及び県の補助を受けて実施した、個人住宅の建設等に伴う遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。本書が、学術資料としてはもとより、多くの方々が郷土の歴史への関心を高め、埋蔵文化財の保護と重要性を理解していただくための資料として、広く活用されることを願っています。

発掘調査から本報告書の刊行にいたるまで、ご指導並びに、ご協力いただきました文化庁記念物課、千葉県教育庁文化財課をはじめ関係諸機関各位に、心より御礼申し上げます。

平成25年3月

市原市教育委員会
教育長 白鳥秀幸

例 言

- 1 本書は、国庫および県費の補助を受けて、市原市教育委員会が主体となり実施した、市内に所在する遺跡における発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査と整理作業・報告書刊行は、市原市教育委員会生涯学習部の埋蔵文化財調査センターが実施した。
- 3 本報告書所収の調査は下記の通り（調査順）である。所在地などの諸情報は巻末の報告書抄録に記載した。

(1) 郡本遺跡群 第15次（調査コード セ493）	確認調査 264 m ² ／2640 m ²
調査期間：平成24年2月28日～3月12日	調査担当：牧野光隆
(2) 郡本遺跡群 第16次（調査コード セ494）	確認調査 48 m ² ／483.11 m ² ・本調査 24 m ²
調査期間：平成24年3月8日～3月15日	調査担当：北見一弘
(3) 君塚クワノ木古墳（調査コード セ497）	確認調査 28 m ² ／283 m ²
調査期間：平成24年5月22日～5月28日	調査担当：近藤 敏
(4) 市原城跡 門前地区（調査コード セ496）	確認調査 26.5 m ² ／265.89 m ² ・本調査 86.4 m ²
調査期間：平成24年5月29日～6月15日	調査担当：小川浩一
(5) 山倉前畑遺跡 第2地点（調査コード セ499）	本調査 118.5 m ²
調査期間：平成24年8月1日～8月10日	調査担当：近藤 敏
(6) 辰巳台遺跡群 第2地点（調査コード セ500）	確認調査 30.9 m ² ／309.47 m ²
調査期間：平成24年8月17日～8月21日	調査担当：田所 真
(7) 菊間遺跡群 深道地区C地点（調査コード セ501）	確認調査 99.9 m ² ／999.38 m ²
調査期間：平成24年8月24日～8月31日	調査担当：近藤 敏
(8) 市原城跡 辻地区第2地点（調査コード セ503）	確認調査 40.6 m ² ／406.27 m ²
調査期間：平成24年9月10日～9月14日	調査担当：近藤 敏
(9) 山新遺跡 永津前地区（調査コード セ504）	確認調査 75 m ² ／750 m ²
調査期間：平成24年9月18日～9月26日	調査担当：小川浩一
(10) 能満分区遺跡群 貝殻塚地区（調査コード セ508）	確認調査 507 m ² ／4161 m ²
調査期間：平成25年2月20日～3月8日	調査担当：近藤 敏
- 4 本書内の作図・本文執筆は、各調査担当者が行い、編集その他作業を小橋健司が担当した。
- 5 郡本遺跡群第16次・君塚クワノ木古墳・辰巳台遺跡群第2地点の調査では基準点測量を実施していない。そのため、図中に示す座標値（平面直角座標第Ⅸ系・日本測地系）及び北方位は、地形図等から求めたものであり、厳密なものではない。また、各遺跡全体図中に1点のみ世界測地系変換座標（TKY2JGD ver.1.3.79による）を記した。水準については、近隣の既知点より求めて使用した。
- 6 本年度は、能満分区遺跡群貝殻塚地区（確認調査）も実施したが、平成25年2月下旬からの調査であるため、来年度の整理報告とする。

本 文 目 次

1 調査遺跡の位置	1	7 辰巳台遺跡群 第2地点	22
2 郡本遺跡群 第15次	2	8 菊間遺跡群 深道地区C地点	24
3 郡本遺跡群 第16次	4	9 市原城跡 辻地区第2地点	28
4 君塚クワノ木古墳	8	10 山新遺跡 永津前地区	31
5 市原城跡 門前地区	11	11 出土遺物観察表	33
6 山倉前畑遺跡 第2地点	17		

挿 図 目 次

第 1 図	調査遺跡の位置	1
第 2 図	郡本遺跡群調査地点の位置	2
第 3 図	郡本遺跡群第 15 次調査区全体図・土層断面図・遺物実測図	3
第 4 図	郡本遺跡群第 16 次調査区全体図・遺物実測図	5
第 5 図	郡本遺跡群第 16 次本調査区遺構図・遺物実測図	6
第 6 図	郡本遺跡群第 16 次SK-2 人骨出土実測図	7
第 7 図	君塚クワノ木古墳と君塚古墳群	8
第 8 図	君塚クワノ木古墳調査平面図と君塚三山塚（1974 年当時）墳丘図・断面図	9
第 9 図	君塚クワノ木古墳出土遺物実測図	10
第 10 図	市原城跡門前地区周辺地形図	11
第 11 図	市原城跡門前地区トレンチ配置図	12
第 12 図	市原城跡門前地区平面図・断面図	13
第 13 図	市原城跡門前地区断面図・遺物実測図（1）	14
第 14 図	市原城跡門前地区遺物実測図（2）	15
第 15 図	市原城跡門前地区遺物実測図（3）	16
第 16 図	山倉前畑遺跡周辺地形図・調査区全体図	18
第 17 図	山倉前畑遺跡第 2 地点本調査平面図・断面図	19
第 18 図	山倉前畑遺跡第 2 地点出土遺物実測図	20
第 19 図	山倉前畑遺跡第 2 地点出土遺物実測図および出土位置図	21
第 20 図	辰巳台遺跡群第 2 地点周辺地形図・トレンチ配置図	22
第 21 図	辰巳台遺跡群第 2 地点遺構配置図	23
第 22 図	辰巳台遺跡群第 2 地点出土遺物実測図	23
第 23 図	菊間遺跡群深道地区 C 地点と菊間古墳群	25
第 24 図	菊間遺跡群深道地区 C 地点全体平面図・断面図	26
第 25 図	菊間遺跡群深道地区 C 地点出土遺物実測図	27
第 26 図	市原城跡辻地区第 2 地点平面図・断面図	29
第 27 図	市原城跡辻地区第 2 地点出土遺物実測図	30
第 28 図	山新遺跡永津前地区周辺地形図	31
第 29 図	山新遺跡永津前地区遺構配置図・遺物実測図	32

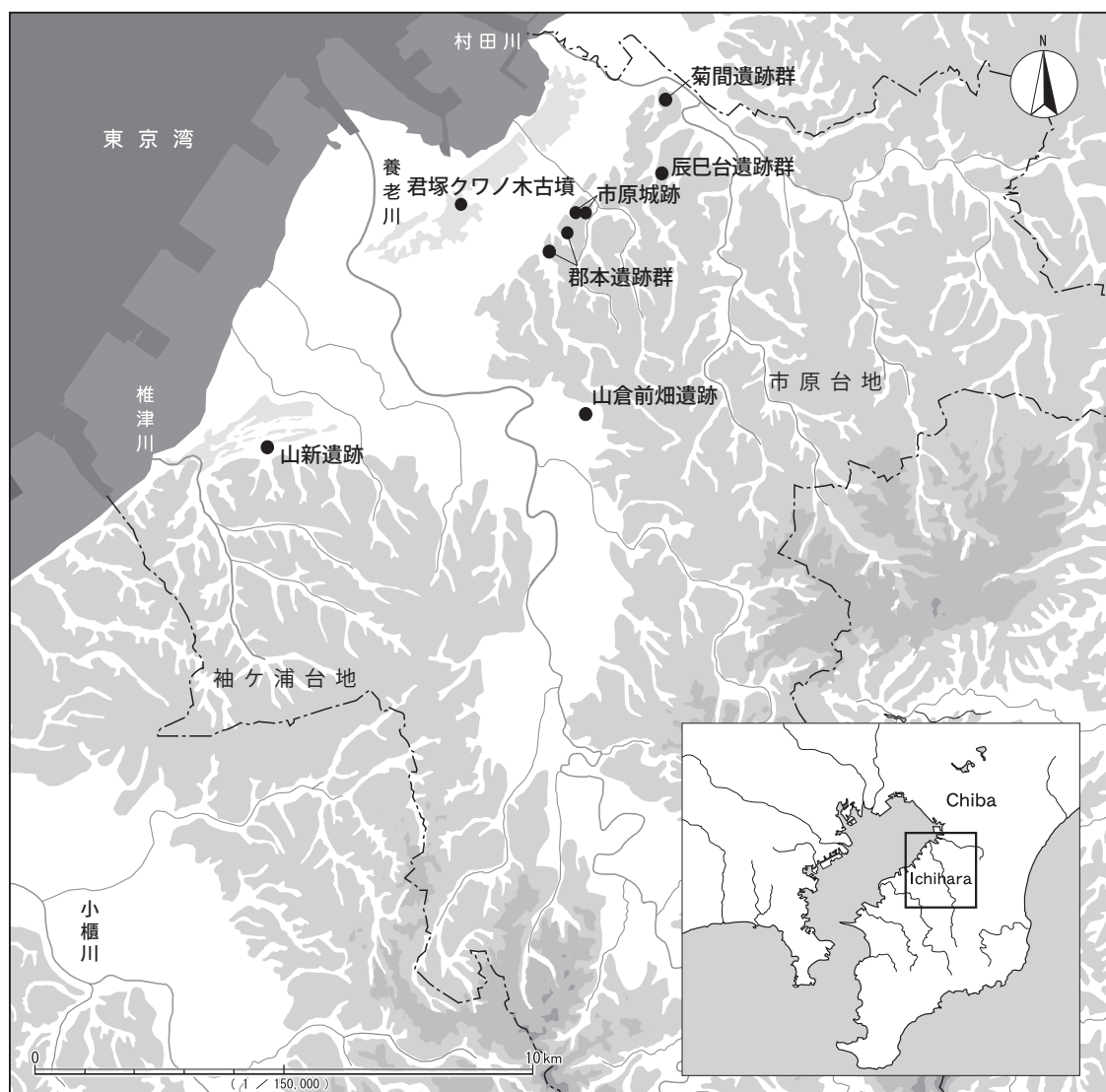
図 版 目 次

図版 1	郡本遺跡群第 15 次調査・郡本遺跡群第 16 次調査
図版 2	郡本遺跡群第 16 次調査・君塚クワノ木古墳調査・市原城跡門前地区調査
図版 3	市原城跡門前地区調査・山倉前畑遺跡第 2 地点調査
図版 4	山倉前畑遺跡第 2 地点調査・辰巳台遺跡群第 2 地点調査
図版 5	辰巳台遺跡群第 2 地点調査・菊間遺跡群深道地区 C 地点調査
図版 6	市原城跡辻地区第 2 地点調査・山新遺跡永津前地区調査
図版 7	郡本遺跡群第 15 次出土遺物・郡本遺跡群第 16 次出土遺物・君塚クワノ木古墳出土遺物・ 市原城跡門前地区出土遺物
図版 8	市原城跡門前地区出土遺物
図版 9	市原城跡門前地区出土遺物・山倉前畑遺跡第 2 地点出土遺物
図版 10	山倉前畑遺跡第 2 地点出土遺物・辰巳台遺跡群第 2 地点出土遺物・ 菊間遺跡群深道地区 C 地点出土遺物・市原城跡辻地区第 2 地点出土遺物・ 山新遺跡永津前地区出土遺物

1 調査遺跡の位置

平成24年度は、市原城跡門前地区（個人住宅建設）・君塚クワノ木古墳（出羽三山塚整備）・山倉前畑遺跡第2地点（個人住宅建設）・辰巳台遺跡群第2地点（個人住宅建設）・菊間遺跡群深道地区C地点（個人住宅建設）・市原城跡辻地区第2地点（個人住宅建設）・山新遺跡永津前地区（高齢者福祉施設建設）・能満分区遺跡群貝殻塚地区（資材置場造成）の8箇所を発掘調査した。今回は能満分区遺跡群を除く7遺跡と、平成23年度末に調査された郡本遺跡群第15次・第16次の2遺跡を掲載する。

今回掲載の調査遺跡はすべて市内北部に位置する。君塚クワノ木古墳が養老川下流右岸の沖積地、山新遺跡永津前地区が同左岸沖積地、山倉前畑遺跡第2地点が中流右岸低位段丘に立地するほかは、市原台地の台地上平坦面での調査である。東京湾を望む台地上はこれまでも大規模な宅地開発が行われてきた地域だが、耕地や旧来の広い宅地の維持が困難になりつつある社会背景を受け、それらを補間するような開発（個人・集合住宅、福祉施設）が多くなってきており、小規模発掘調査の機会が増えている。今後も国府・郡家推定地など重要地域の調査がこのようなかたちで進むものと思われる。



第1図 調査遺跡の位置

2 郡本遺跡群 第15次 (遺構：図版1 / 出土遺物：図版7)

遺跡の位置 遺跡の位置と周辺の調査状況 郡本遺跡群は、東京湾の海岸線より南東に約2.5km入った市原台地上に所在している。標高は、25 m前後である。遺跡の広がり、南北1.35km、東西0.83kmという広大な台地平坦面全域に及んでいることから、「郡本遺跡群」と呼称している。周辺はこれまでに、小規模な調査を14回実施するとともに、「古甲遺跡」として上総国府推定地の学術調査を計7回実施し、古代～中世にかけての遺構が確認されている。

調査概要 宅地造成にともなう確認調査であり、地形等を考慮して33か所にトレンチを設定した。調査区北半に遺構が集中しており、中世室町期の台地整形をともなう墓域の様相を呈していた。1・2・6・9・10・11トレンチではその掘り込みの肩部分が確認できた。整形区画の中央部付近とみられる底面付近(5トレンチ)から、第3図1の平碗が出土しており、古瀬戸後期様式(後Ⅱ期)の15世紀前半というおよその時期がわかる資料である。

その他に1辺が数十cm～2mほどの方形土坑が19基、ピット11基を確認した。

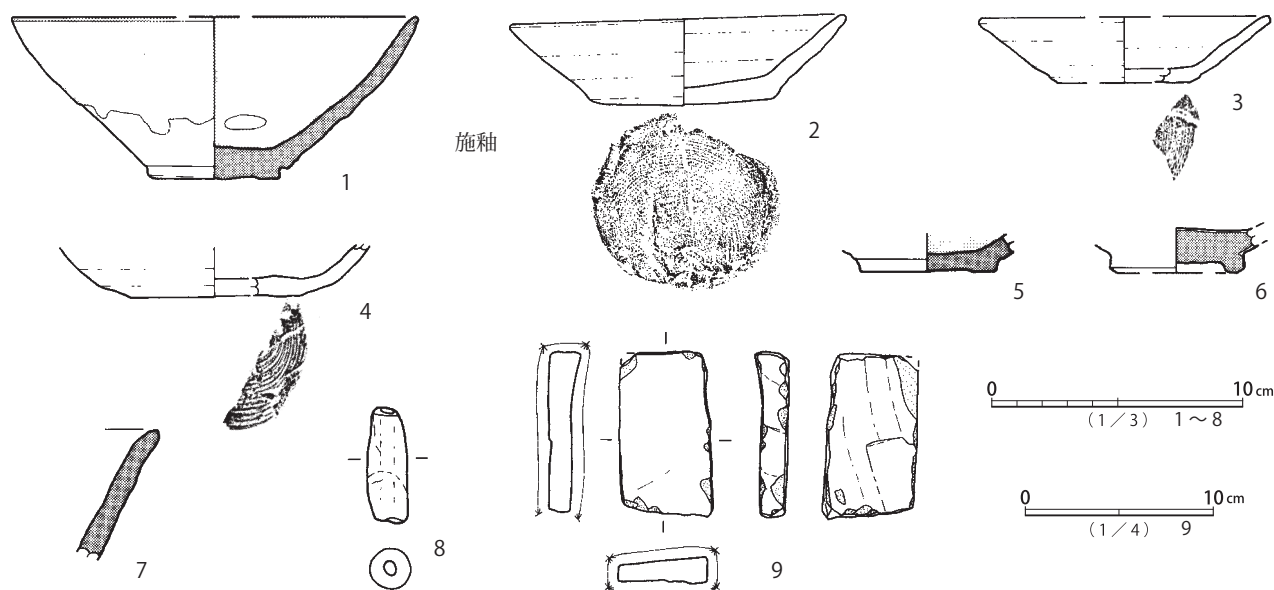
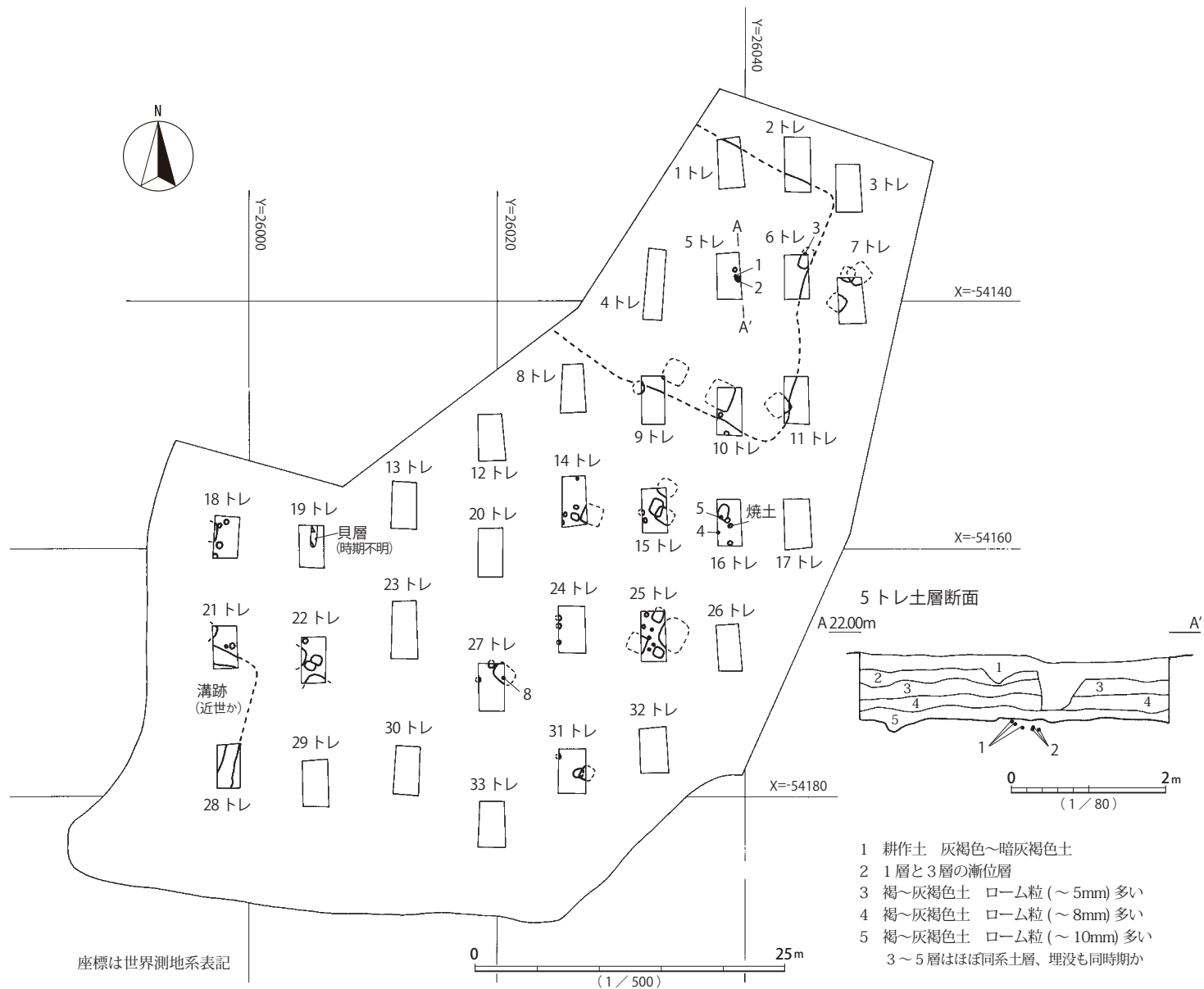
本調査 確認結果をふまえ、平成24年度に本調査を実施している。下記の報告書を参照されたい。

小橋健司他2013『市原市郡本遺跡群(第15次)』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第26集



(市原市基本図 1/2500 昭和55年測図より)

第2図 郡本遺跡群調査地点の位置



第3図 郡本遺跡群第15次調査区全体図・土層断面図・遺物実測図

3 郡本遺跡群 第16次 (遺構：図版1・2 / 出土遺物：図版7)

遺跡の位置と周辺環境 遺跡は、市原台地の東京湾を望む標高22m程に位置する。調査区は、南側に開口する谷の北辺に接し、小谷状地形を呈する谷頭部にあたる。この谷を隔てた南側と、谷頭部西側に過去の調査が集中する。これまでの調査は郡本遺跡群としてのほかに、上総国府推定地（古甲遺跡）、また、五井本納線の拡幅に伴う調査も実施されており（県文化財センター）、部分的にはあるが面的な検討が可能になりつつある。今回の調査は第16次となるが、調査区はこれまでの調査地点から離れた位置にあり、周囲100m圏内での調査は皆無である（第2図）。近隣の調査としては、150m北に調査名郡本遺跡群（現門前公園）があり、縄文時代晩期、古墳時代前・後期、奈良・平安時代の遺構を検出している。また、現在調査区の西90mほどには、真言宗豊山派の寺院である多聞寺があり、境内には室町時代～戦国期の所産とされる石造五輪塔（空風輪と火水輪では時期が異なる）が知られるが、多聞寺については資料が少なく、開山時期等管見では不明である。

調査概要 調査は、個人住宅建設に伴い、対象面積10%の確認調査を実施し、その結果、工事によって破壊を受ける範囲24㎡について引き続き本調査を実施した。なお、これにより付与したトレンチ及び遺構の名称・番号については、整理報告でもそのまま使用している。調査時の方位は磁北を採用した。また、トレンチの設定においては、建物建設範囲の除外、及び調査関係機材の設置場所確保の必要性から、調査対象範囲に対し北側に偏った配置となっている。

遺構と遺物 確認調査で検出した遺構・遺物は以下のとおりである。

1 トレンチ 遺構確認面まで0.5mを測る。土壌1基、溝1条を検出している。削平予定の範囲にあたるため、工事範囲を本調査した。出土遺物は6が土師器碗で内面は黒色処理を施す。SD-1西側の1段低い整形面の覆土中から出土。7は土師器杯で、切り離しは静止糸切無調整で、底部内面のナデは観察出来ない。9は常滑甕である。いずれも遺構外からの出土である。

2 トレンチ 遺構確認面まで0.25～0.4mを測る。土壌2基及び時期不明土坑を1基検出している。出土遺物は1が土師器脚高台付杯、2は鉄製釘である。遺構外出土。10は寛永通宝のいわゆる新寛永。

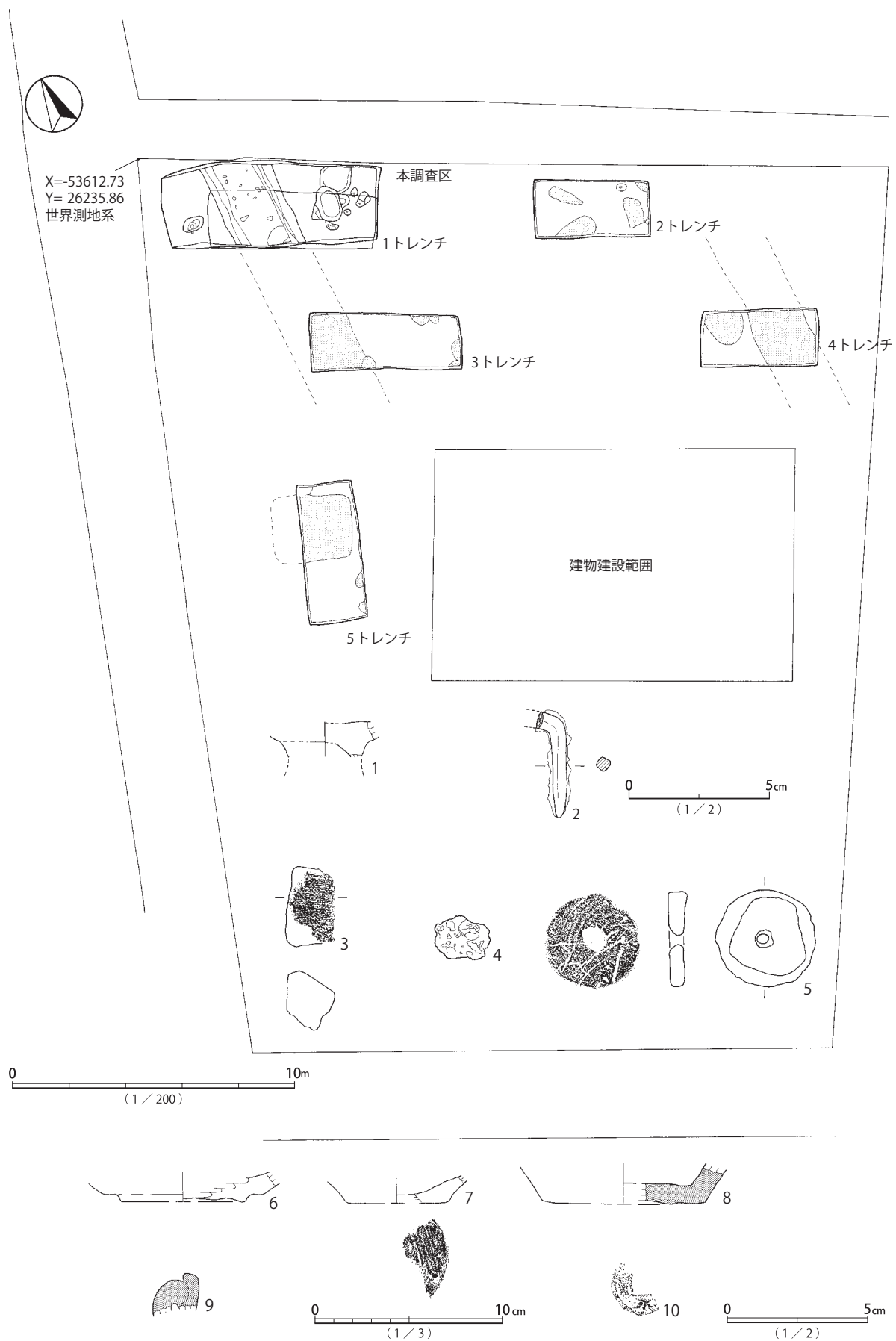
3 トレンチ 遺構確認面まで0.13～0.26mを測る。1トレンチから続く溝1条を検出。実測遺物は無い。

4 トレンチ 遺構確認面まで0.20～0.28mを測る。溝1条、土坑1基を検出している。出土遺物は、3が平瓦で溝状遺構からの出土、4は鉄滓で一部にガラス質が付着する。遺構外の出土。

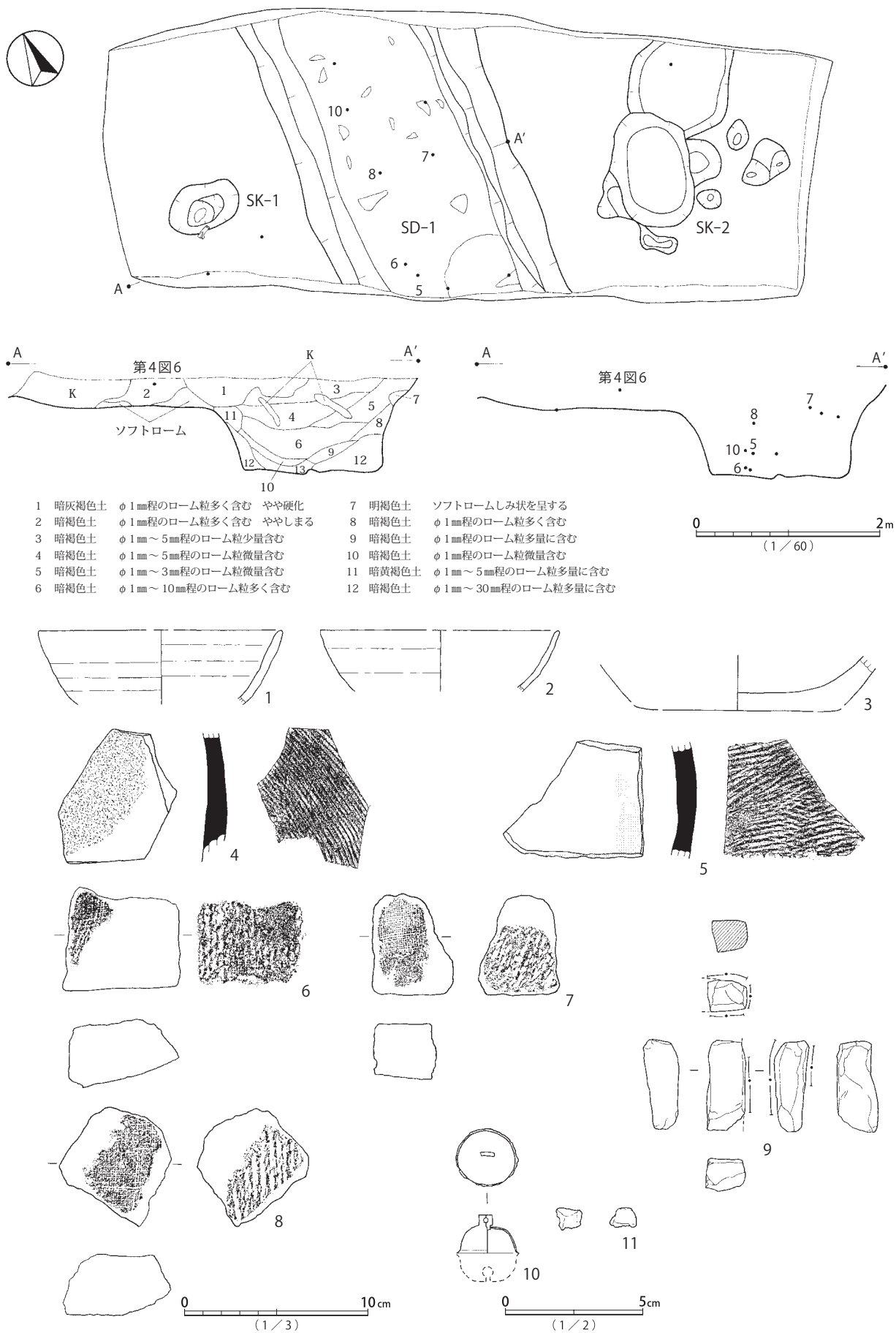
5 トレンチ 遺構確認面まで0.27～0.31mを測る。小竪穴1基を検出している。出土遺物は5が土師器杯の底部を転用した紡錘車の紡輪で、小竪穴遺構の出土である。ほかに弥生土器の破片を確認していたが、調査中に失われている。他に8の常滑甕底部とみられる破片が表採されている。

1 トレンチを拡張し、本調査区とした。本調査で検出した遺構・遺物は以下のとおりである。

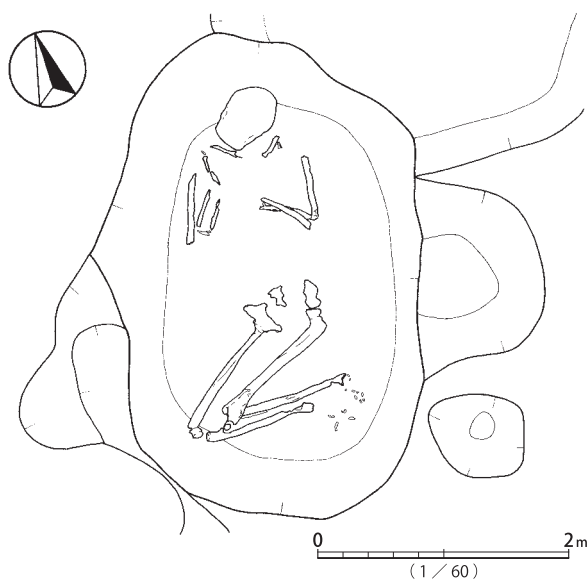
溝 SD-1 調査区北西部に位置する。3トレンチでも同深度、同軸の遺構を確認しており、同遺構とみられる。主軸方位は磁北を基準にN-2°-E、遺構上端幅2.28m、底部幅1.35～1.40m、遺構確認面からの深さは0.96～1.11mを測る。断面形状は逆台形で、上位付近で屈曲して開口する。法面及び底面は平滑で、部分的に鋤痕とみられる窪みが確認された。南東隅に掘り込みの一部が認められるが性格は不明。本遺構の東側と西側では0.29mの高低差であり、底面は調査区内3.1mで0.09mの高低差が認められ、僅かに北側へ傾斜している。出土遺物は、1・2が土師器杯で底部欠損し、覆土



第4図 郡本遺跡群第16次調査区全体図・遺物実測図



第5図 郡本遺跡群第16次本調査区遺構図・遺物実測図



第6図 郡本遺跡群第16次SK-2人骨出土実測図

上層からの出土。3は土師器甕の底部、4は須恵器甕の転用硯もしくは砥石で、底面から0.65mの中層からの出土、5は須恵器甕の転用硯で、底面から0.25mで出土、6～8は平瓦で、縄目叩きを施す。6は底面直上、7・8は底面から0.7～0.57mの覆土中層で出土した。9は凝灰岩製の砥石で覆土中の出土、10は銅製鈴、11は10銅製鈴の中に土と共に入って出土した小鉄塊で、本来も鈴の中に入れていたとみられるが、錆化のためか角のある不整形を呈する。遺構の時期を考えた場合、1トレンチ出土遺物も含め、出土遺物には時期的に幅がある。常滑甕は表土中の出土といえるため、静止糸切無調整の杯を古代末としておく。また、上限については

土師器杯があるが、出土位置から遺構への帰属性は曖昧である。また、SD-1の西側が東側に比べ低くなっており、調査時点ではSX-1としたが、SD-1との新旧関係がつかめず、その関連性が否定できないため、本報告では同一遺構として扱う。出土遺物は1トレンチの出土遺物で扱っている。また、4トレンチで検出した溝状遺構は、ピンポールでの深度確認では、SD-1とほぼ同様で、遺構の方向性も近似する。出土遺物も平瓦片が出土しており、近い時期を想起させる。

土壇 SK-1 本遺構はSD-1の西側の一段低くなった整形面に位置する。0.8m×0.54mの不整楕円形を呈し、遺構確認面からの深さは0.28mを測る。上部は近年の攪乱をうけている。出土遺物は人骨とみられる骨のみで、遺存状態が悪く図示出来ない。覆土の状況からすると整形面よりも新しい。

SK-2 SD-1の東側に位置する。1.26m×0.85mの、隅丸方形に近い楕円形を呈し、遺構確認面からは0.37～0.33mの深さである。周囲は不整形な掘り込みが認められるが、関連性は不明である。

SK-2では人骨が1体検出された。頭位を北、仰臥位で膝は体の右側に向け曲げている。腕は上腕骨より先の橈骨・尺骨が内側を向いており、胸の上で手を合わせた状態が復元可能。遺存する部位は、鼻骨・涙骨・上顎骨の一部・頬骨を除く頭蓋骨、鎖骨・上腕骨・橈骨・尺骨、大腿骨・脛骨である。他に腰骨の一部と足の指骨が認められたが、取り上げ時に形状を保つことは出来なかった。骨の遺存状態は悪く、表面は原状をほぼ留めない。性別は不明。前頭骨がやや丸みを持つ印象を受ける。本遺構の時期は、覆土がSK-1に近い同様な時期と考えられる。中世後期～近世初頭としておく。

今回の調査では、奈良・平安時代の中規模の溝が検出され、区画溝であれば何を区画するものなのか遺構の性格に興味を持たれる。並行した溝の存在も考えられるが、調査区の限界から関連性を問える段階ではない。また、複数の土壇の存在から、中世後期～近世初頭のある段階で墓域化するが、詳細時期や近接する多聞寺との関連など課題は多い。5トレンチで検出した小竪穴遺構が土壇に先行するものと考えたいが、資料の制約から推定の域を出ない。今後の隣接地調査に期待する。

最後に、本調査区から南南西550mで、平成23・24年度に郡本遺跡群第15次が調査され、中世後期の台地整形を含む遺構群が広く検出されており、台地南西辺という立地条件の一致もあり、対照遺跡として参考にあげておく（本書2参照）。

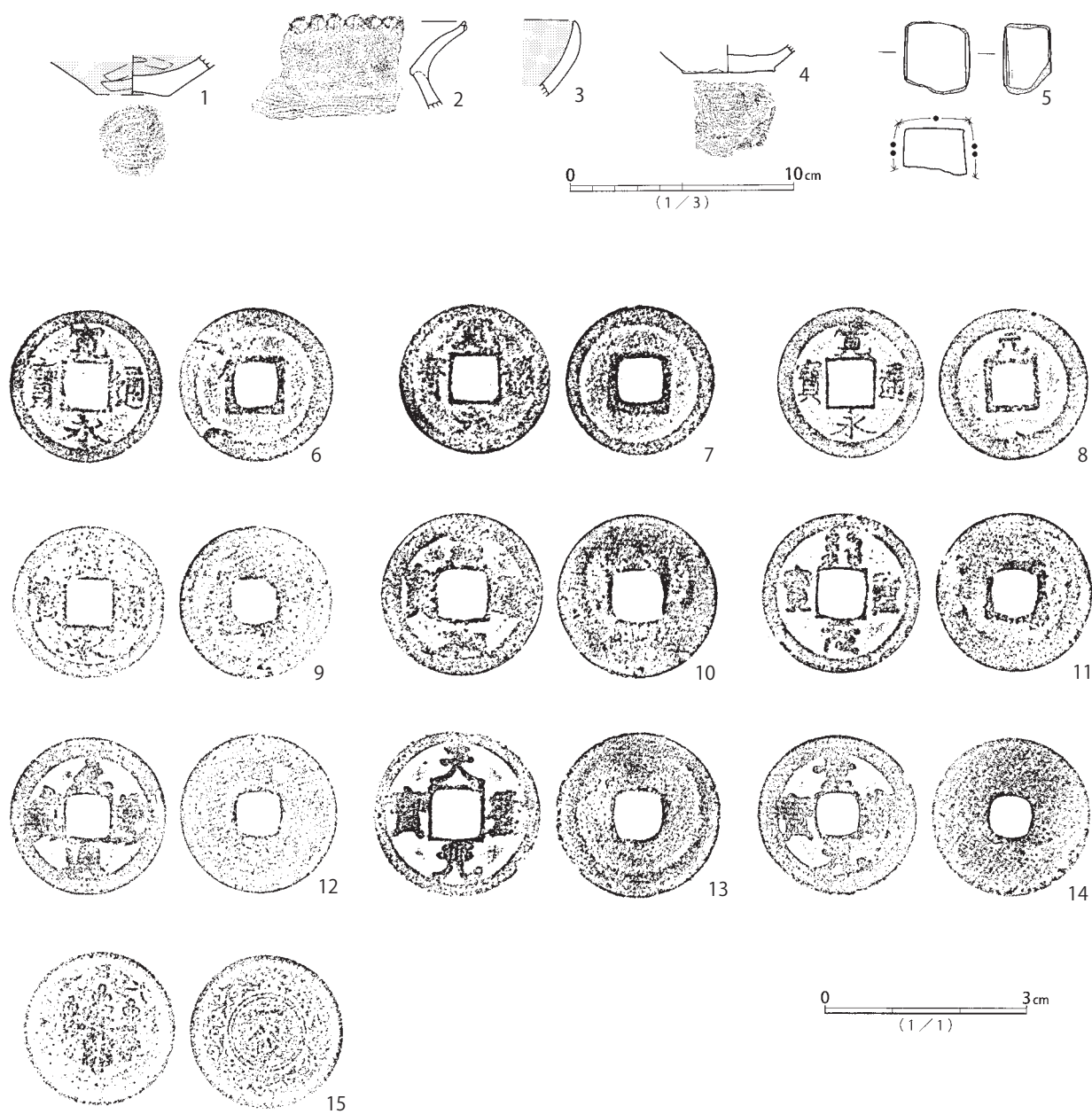
4 君塚クワノ木古墳 (遺構：図版2／出土遺物：図版7)

遺跡の位置と周辺の調査状況 君塚クワノ木古墳は、東京湾東岸の標高3 m前後の海岸平野に位置し、白旗川左岸海岸砂丘列上第7図の①に立地している。西方向100 mに君塚古墳群君塚天神山古墳②があり、同じく300m西に③波瀲三山塚が位置する。君塚クワノ木古墳は1979年君塚土地区画整理に伴う君塚三山塚修築の際に調査が実施されている(田中1980)。

遺構と遺物 今回調査開始前段階では、君塚三山塚の修築のための立木伐採根柢作業で、2段3段目の塚部分は既に無く、第7図区画整理前三山塚の1段目部分が敷地内に残されている状況であった。トレンチ断面図標高4 m前後が三山塚の1段目と2段目の境と推測される。第8図平面図網目トーン部分は、本来砂層母体の盛土に、関東ローム層である赤土が充填されており、銅貨である平成年間の十円硬貨が出土したため、平成の塚の修築で客土されたものであることが判明した。断面図D-D'のトレンチでは、寛永通宝が検出され、これらは江戸期塚の造営か、修築の際に散布されたものと推測される(牧野2011)。調査ではクワノ木古墳関連の遺構遺物は検出されず、最初の調査で確認された石材について、移動保管された塚石材の中に古墳で使用されたであろう軟質の板状礫岩が2点発見されたに過ぎない。君塚三山塚上に建立されてあった石碑には、江戸時代宝暦・寛政の年号が記されており、検出された寛永通宝は新寛永と考えられるので、造営年代について矛盾はない。



第7図 君塚クワノ木古墳と君塚古墳群



第9図 君塚クワノ木古墳出土遺物実測図

参考文献

田中清美 1980 『君塚クワノ木古墳』 市原市君塚発掘調査団

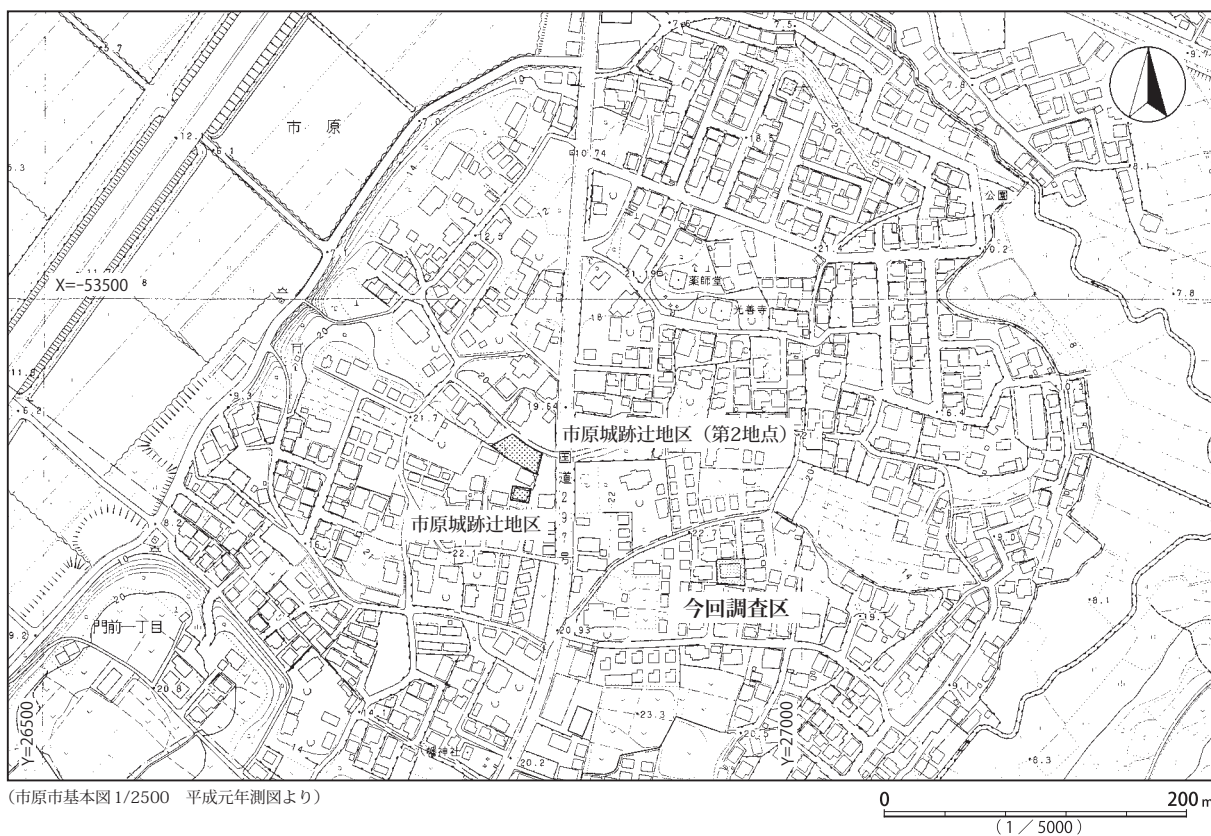
牧野光隆 2011 『市原市平野馬頭塚』 市原市教育委員会

5 市原城跡 門前地区 (遺構：図版2・3／出土遺物：図版7・8・9)

遺跡の位置 遺跡は、西方約2kmに東京湾を望む市原台地の北部に位置し、北方200mには、初期寺院と考えられている光善寺廃寺跡が存在し、当地域周辺は、上総国府推定地の最も有力なエリアのひとつとなっている。これまで周辺では、小規模ではあるが、数次にわたる発掘調査が行われ、市原台地を南北に縦走する国道297号を挟んだ西側では、平成22年に市原城跡辻地区として調査が行われ、掘り方規模の大きな古代の掘立柱建物跡を確認している。また、平成24年に隣接する場所が市原城跡辻地区第2地点として調査が行われ、東西にわたって、幅6m前後の道路跡とも考えられる溝状遺構が確認されており、海岸平野から阿須波神社にかけ上がっていく古代官道と、国道297号線沿いに並走する古代官道とを結ぶ古代官道の可能性が考えられている。

調査概要 今回は、個人住宅の建設に先立って確認調査が行われ、調査対象面積265.89㎡に対し、4本の調査トレンチ26.5㎡を設定した。その結果、平安時代の掘立柱建物跡3棟、弥生時代後期の竪穴建物跡5軒、平安時代の竪穴建物跡1軒、平安時代末～中世初頭の土壇墓1基及び弥生時代後期の溝状遺構1条を確認した。その後、遺構が確認され、施工上、保護層の確保が困難な部分86.4㎡については、遺構を掘り下げて、本調査を行ったものである。

遺構と遺物 ほぼ全てのトレンチから遺構が確認されており、調査範囲全体に遺構が展開している。現状保存となった1トレンチにおいては、平安時代の土師器杯1・2が出土した土坑等を確認した。建物部分は本調査が行われ、弥生時代後期の竪穴建物跡1・4・10号跡や、平安後期の竪穴建物跡と考えられる12号跡を検出した。10号跡は、甕1・2・3が倒立した状態で出土した。一方、12号跡は、5・



第10図 市原城跡門前地区周辺地形図



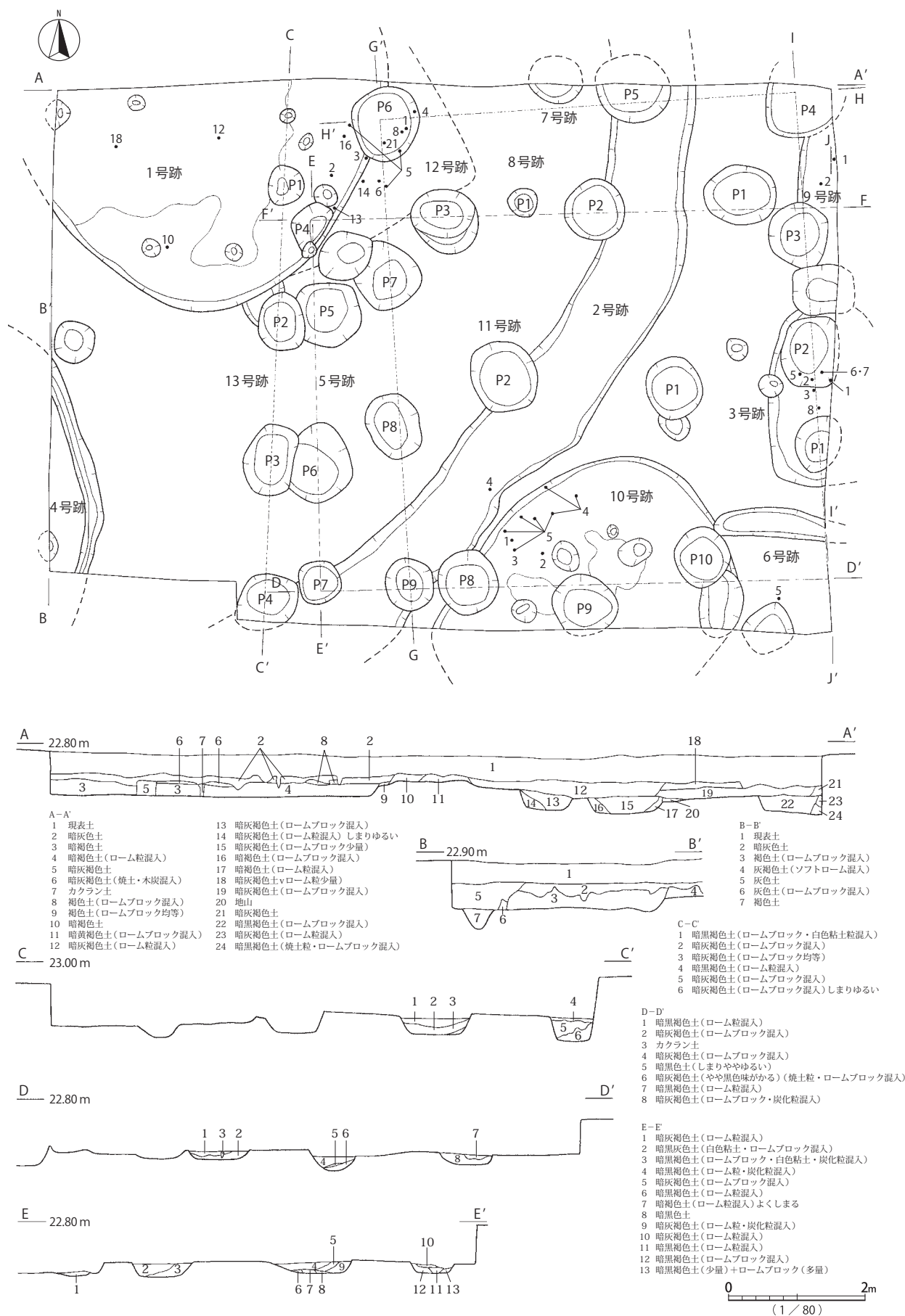
第11図 市原城跡門前地区トレンチ配置図

7・13号掘立柱建物跡の柱穴上に、焼土やカマドの構築材である白色粘土が堆積しており、本調査区内にある掘立柱建物跡が廃絶した後に作られたと考えられる。掘立柱建物跡は3棟検出され、柱掘り方は、いずれも不整な円形を呈し、平面規模は0.8～1.0m、深さは0.2～0.4m程を測る。明瞭な柱痕跡等は認められなかった。建物跡の方位は、13号跡がN-2°-E、5号跡がN-2°-W、7号跡がN-4°-Wを測る。新旧関係は、13号跡が5号跡より古い。5号跡と7号跡の建物の振れが近いことから、13号跡は7号跡よりも古いと考えられる。また、調査区東側では、7号跡の廃絶後、土壌墓である3号跡が作られた。規模は長軸2.6m、深さは0.6m程を測る。遺構内より、土師器杯1や白磁の輪花皿2、鉄製品の握り鋏6及びガラス製数珠玉8等が出土しており、平安末期～鎌倉初頭にかけては、墓域として認識されていた可能性がある。他には、調査区北東から南西にかけて、弥生時代後期の溝状遺構が縦断している。やや湾曲している感はあるものの、方形周溝墓の一部であろうか。

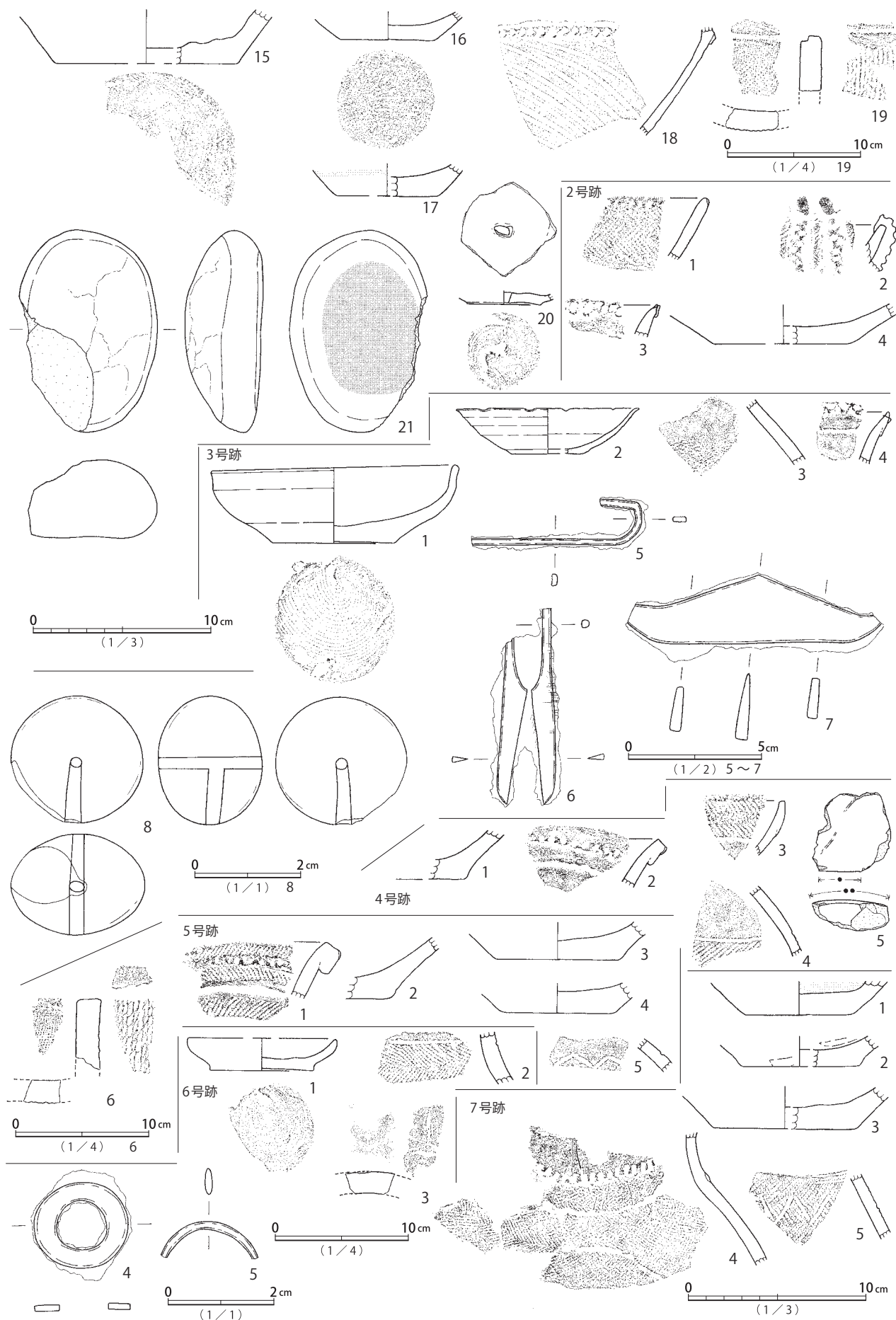
調査の結果 古代にまで遡ると考えられる掘立柱建物跡を3棟検出した。掘立柱建物跡の存続期間であるが、平安時代前～中期を中心とし、建物の方位を東から西へと振りながら、建て替えられていったようである。平安時代後期頃には、竪穴建物跡などが展開するエリアに変わっていたと考えられる。そして、平安時代末期から鎌倉時代初頭においては、墓域として認識されていたと考えられる。

本地点から西へ150mの市原城跡辻地区は、柱穴掘り方規模の極めて大きな掘立柱建物跡や、幅6m程度の官道が展開するエリアであり、大きな古代瓦片や甕が出土している。一方、本地点は、掘立柱建物跡の柱穴掘り方規模は、あまり大きくなく、平面形も円形を呈し、大きな古代瓦や甕の出土も見られなかった。今回の調査地点は、都市である国府域を構成する関連建物跡であることが考えられるとともに、西方に存在する市原城跡辻地区とは、大きく異なる遺構及び遺物の状況が観察される。

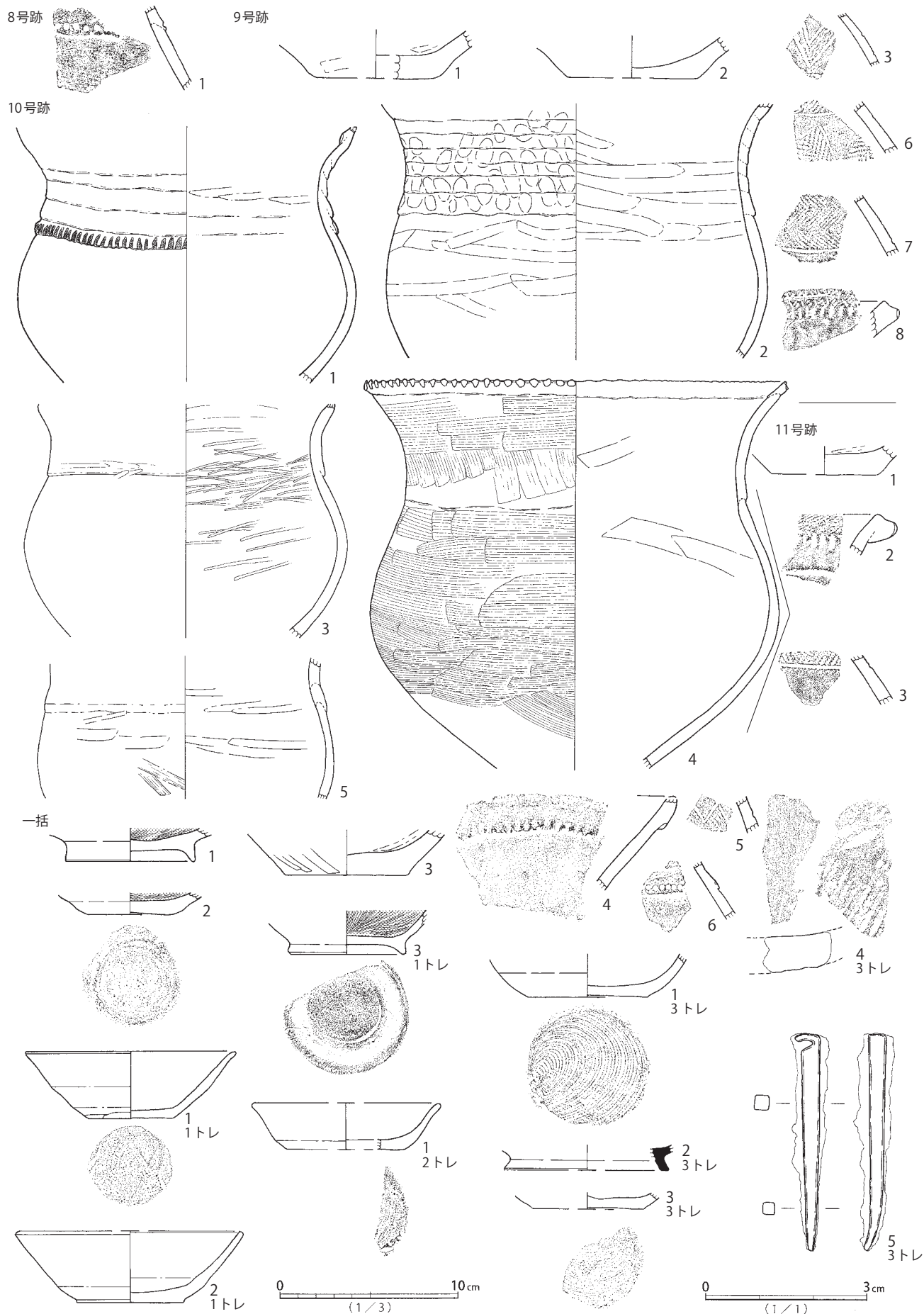
国府域である可能性が高い市原地区から光善寺廃寺跡周辺において、様相が異なる遺跡の情報が蓄積され、国府周辺・関連施設群といった国府内でのエリア分けが解明されていくことを期待したい。



第12図 市原城跡門前地区平面図・断面図



第14図 市原城跡門前地区遺物実測図(2)



第15図 市原城跡門前地区遺物実測図 (3)

6 山倉前畑遺跡 第2地点（遺構：図版3・4／出土遺物：図版9・10）

遺跡の位置と周辺の調査状況 養老川中流右岸、第16図①のソフトローム層のみがある南総Ⅲ面の標高19mの東西方向低位段丘に位置し、養老川方向の西に傾斜している。周辺は②前畑遺跡、③池ノ谷遺跡、④～⑦海土遺跡群等、弥生時代後期から奈良平安時代までの、集落遺跡や古墳が広がっている。調査対象は平成23年度確認調査（櫻井2012）、第16図下段山倉前畑遺跡第2地点の南部分にあたり、個人住宅建設範囲において本調査を実施した。

遺構と遺物 遺構は旧畑地耕作土を取り除くと遺物が検出される遺構覆土となり、また一段下げてローム漸移層となり遺構確認面となっている。第17図の検出遺構は1号（古）、5号（新）遺構は支柱穴が検出できない弥生時代後期住居跡であり、5号の貼床の一部が1号を覆っている。2号は遺物を含む凹地、3号は焼土、焼土塊、硬化土が集積する中世時期と推定される遺構、4号、6号遺構は比較的遺物が多く、古墳時代後期の住居跡として、昨年度の確認調査成果と、出土遺物、土層状況から判断した。7号遺構は確認調査時SI11とされたが、本調査は狭小のため、遺構の詳細は不明である。

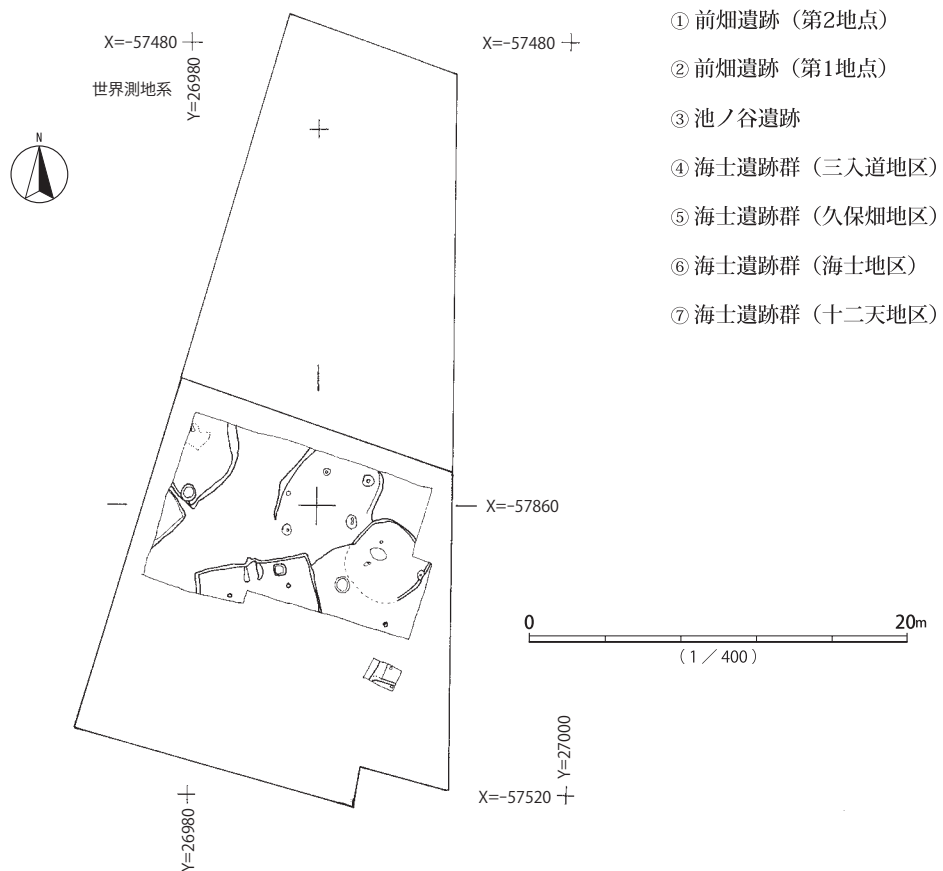
調査区からは縄文時代中期の土器が、確認調査と同様に検出されており、第18、19図と観察表を参照して頂きたい。1号（確認時SI06）は久ヶ原式土器が出土、第18図1～3が床面から、土師器4のみ覆土中から出土している。5号（確認時SI08）は遺構覆土が薄く遺物出土量が少ない、すべて覆土下部からの検出である。周辺に平安時代の遺跡があるため第18図14は混入であろう。

第18図の2号、3号の遺物は覆土中に散在して検出され、縄文土器と弥生土器であり、遺構に直接伴うものはない。4号は確認調査のSI05遺構として甕等が検出されている古墳時代後期の住居跡である。6号は古墳時代後期の住居跡であり、確認時SI07とされ、土師器の甕、杯がカマド周辺に纏まって出土しているが、須恵器の出土はない。第19図20～24が住居跡に伴い、26、27は縄文時代中期の土器である。7号遺構は第19図28～29のカワラケ小皿が覆土中から出土しており、確認調査時の13トレンチから出土したカワラケと同時期である。

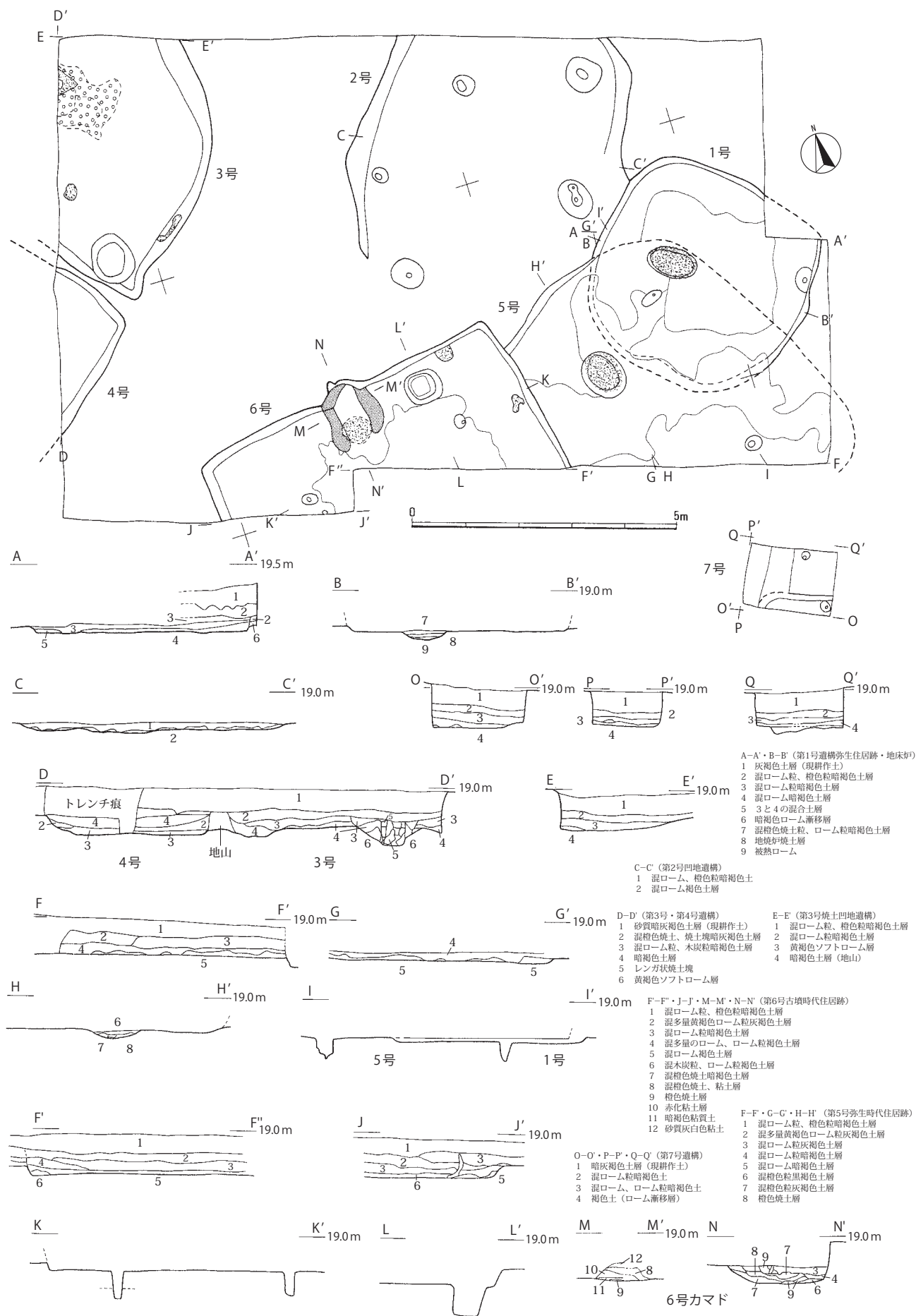
海土遺跡群と前畑遺跡は、西に向かって養老川氾濫原に面する低位段丘面に広がる弥生時代から中世まで連続した遺跡群であり、北は山倉古墳群、東は福増古墳群、西は新殿古墳群（木對2010）が存在する。養老川中流右岸地域の山倉から松崎地区までの広がり、古代史研究の重要対象地域と言える。

参考文献

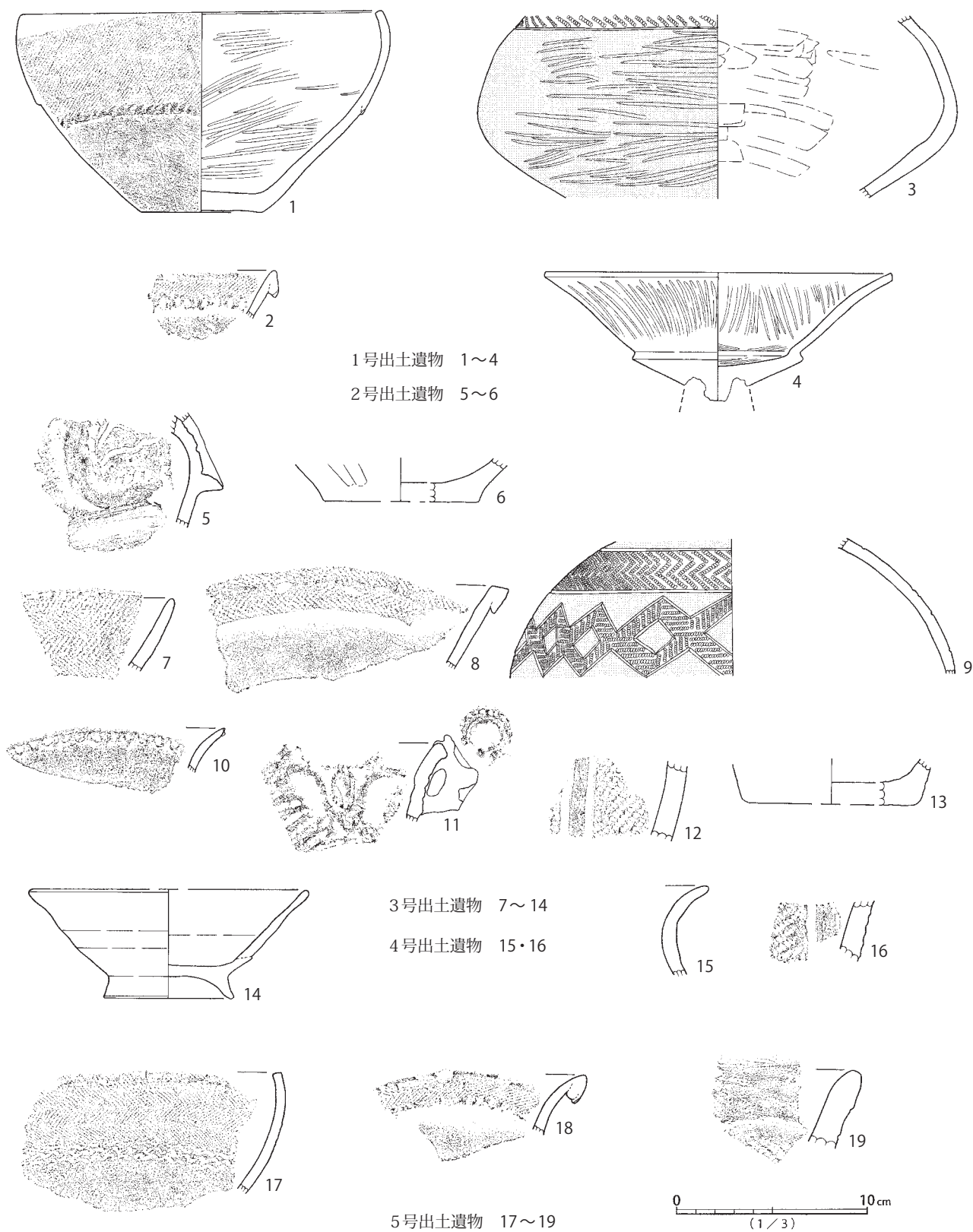
- 小川浩一2008『市原市海土遺跡群（三入道地区）』市原市教育委員会ほか
木對和紀2010『新殿古墳群』市原市教育委員会ほか
櫻井敦史2012「山倉前畑遺跡第2地点」『平成23年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
田所真1985「池ノ谷遺跡」『池ノ谷遺跡・福増遺跡』（財）市原市文化財センター
田所真2012「海土遺跡群海土地区」『平成23年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
田中清美1992「山倉前畑遺跡」『平成3年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
西野雅人ほか2006「海土遺跡群十二天地区」『平成17年度市原市内発掘調査報告』市原市教育委員会
牧野光隆2010『市原市小ノ台遺跡』市原市教育委員会ほか
牧野光隆2011「海土遺跡群久保畑地区」『平成22年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会



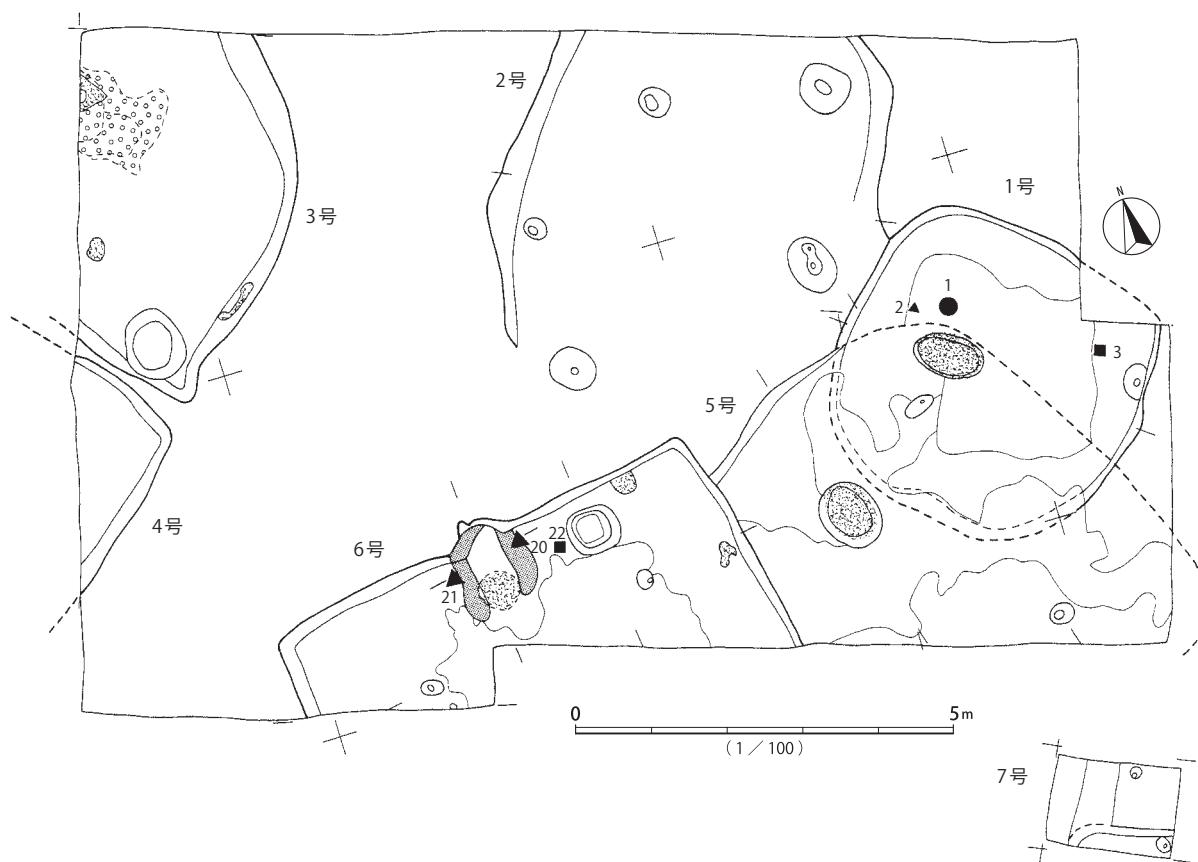
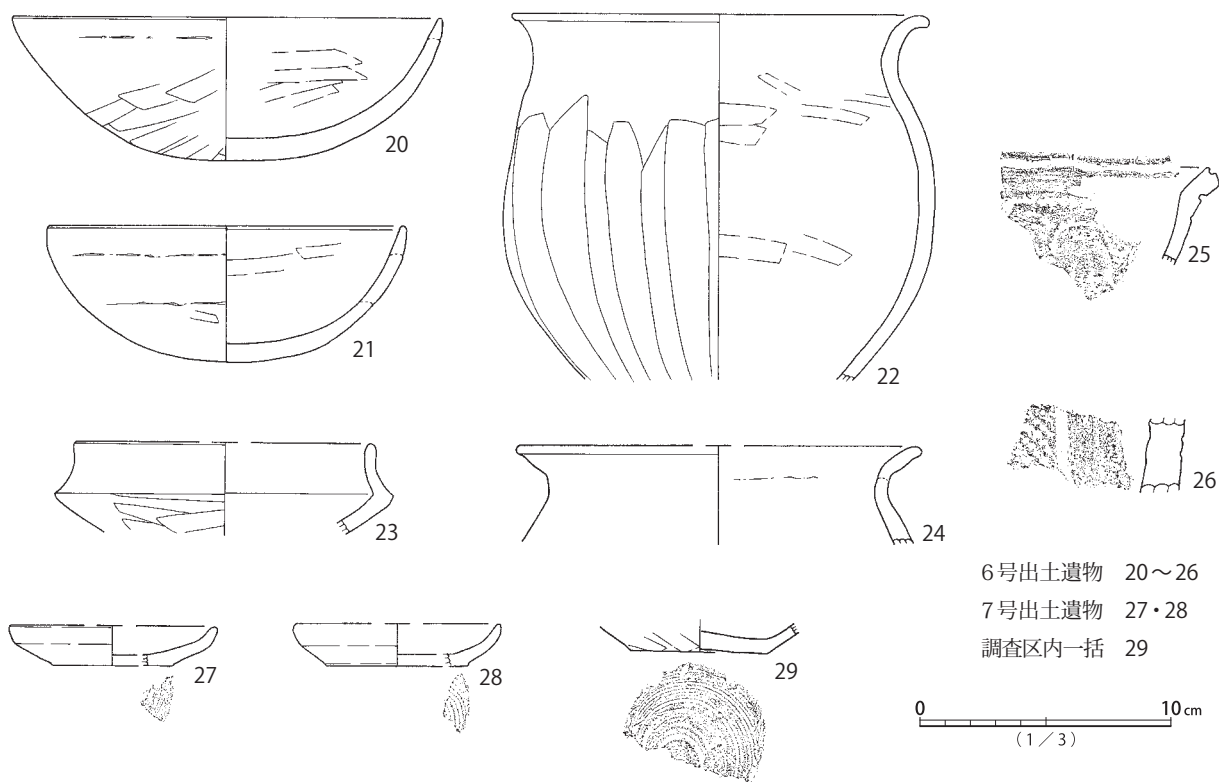
第16図 山倉前畑遺跡周辺地形図・調査区全体図



第17図 山倉前畑遺跡第2地点本調査平面図・断面図



第18図 山倉前畑遺跡第2地点出土遺物実測図



第19図 山倉前畑遺跡第2地点出土遺物実測図および出土位置図

7 辰巳台遺跡群 第2地点（遺構：図版4・5／出土遺物：図版10）

確認調査に至る経緯 発掘調査は、市原市菊間字向原2897番38について、個人住宅建設に先立って市原市教育委員会が実施したものである。遺跡名は、辰巳台遺跡群第2地点である。具体的には、調査対象面積は309.47㎡の一割について確認調査を実施している。発掘調査期間は、平成24年8月17日～8月21日。実働3日間の調査であった。

遺跡群の立地と調査の方法 遺跡は市原市の北部、大字菊間と大字大厩を隔てる侵食谷右岸に立地している。南北幅300m～400mの台地上にあって、標高23m前後の平坦部に位置している。

近隣する菊間2916番地でかつて辰巳台遺跡群（第1地点）の発掘調査が行われており（平成17年7月4日～7月8日）、縄文時代早期後半の条痕文系土器を包含する土坑ならびに炉穴と、古墳時代前期の竪穴式住居跡が検出されている。また、炉穴からは、貝層ブロックも検出された。古墳時代前期の竪穴式住居跡は、4軒検出された。出土遺物には、石鏃、石皿、焼け礫、古墳時代前期後葉の土師器などが認められた。また、周囲の畑地においても、同様の土器片が散見されている。

確認調査は、三ヶ所のトレンチによって実施した。東西方向の調査区に対して、西側から第1トレンチ、第2トレンチ、第3トレンチとした。調査前は宅地であった。宅地造成以前は畑地であつたらしく、表土下には、ソフトローム層が現存しており、これを遺構検出面とした。

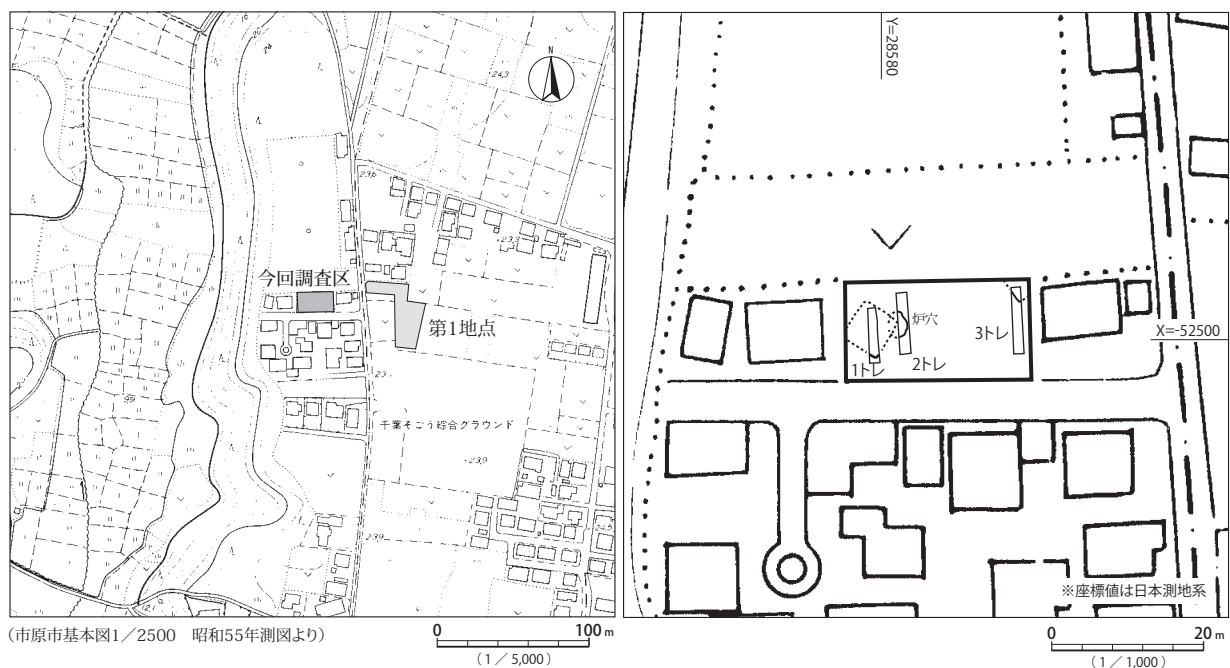
各トレンチの調査面積は、以下のとおりである。

第1トレンチ・・・1.0m×7.5m＝7.5㎡

第2トレンチ・・・1.5m×8.4m＝12.6㎡

第3トレンチ・・・1.2m×9.0m＝10.8㎡ 合計 30.9㎡

確認された遺構と遺物（第20図～第22図） 今回の調査では、第1トレンチのほぼ全体にかけてと、第3トレンチ北端部において、古墳時代前期の所産と考えられる竪穴式住居跡各1軒を確認した。また、



第20図 辰巳台遺跡群第2地点周辺地形図・トレンチ配置図

第2トレンチほぼ中央において縄文時代早期の所産と考えられる炉穴1基を確認した。尚、第2トレンチ北端は、近年の攪乱である。

各遺構の規模、形状は不詳である。また、遺構の時期を示す確実な共伴遺物は、出土していない。従って、遺構の時期については、今回、各トレンチから出土している包含層内遺物ならびに平成17年7月に実施された近隣調査（辰巳台遺跡群辰巳ヶ原地区）の成果を参考としている。なお、第2トレンチは、8月2日に実施された試掘調査地点を包括している。試掘調査で出土した遺物は、縄文時代早期後葉（茅山下層式）2点と、古墳時代前期の土師器2点であった。

確認調査において各トレンチから出土した遺物は、次のとおりであった。

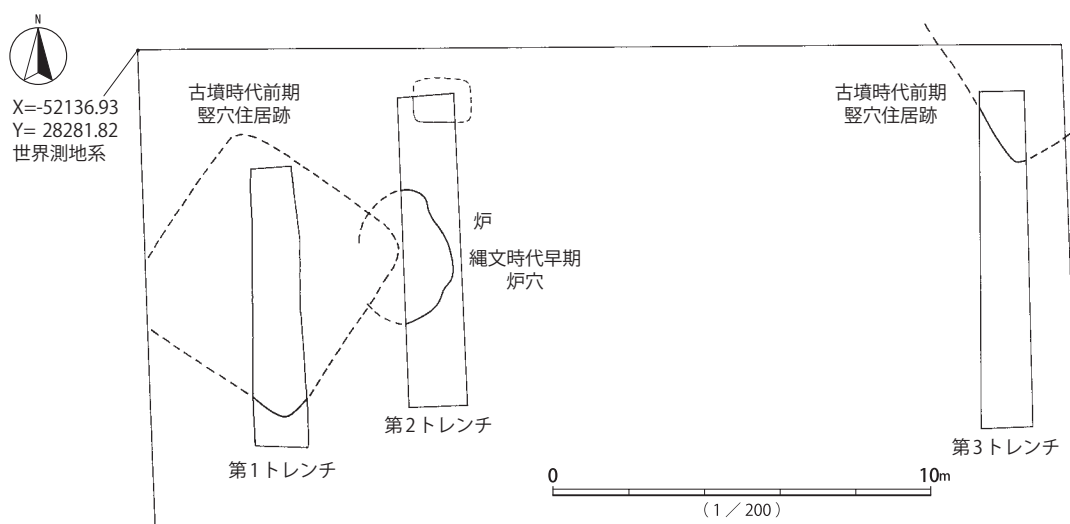
第1トレンチ・・・縄文時代（早期後葉）11点、（前期）1点、古墳時代前期28点。

第2トレンチ・・・縄文時代（前期）細片1点。

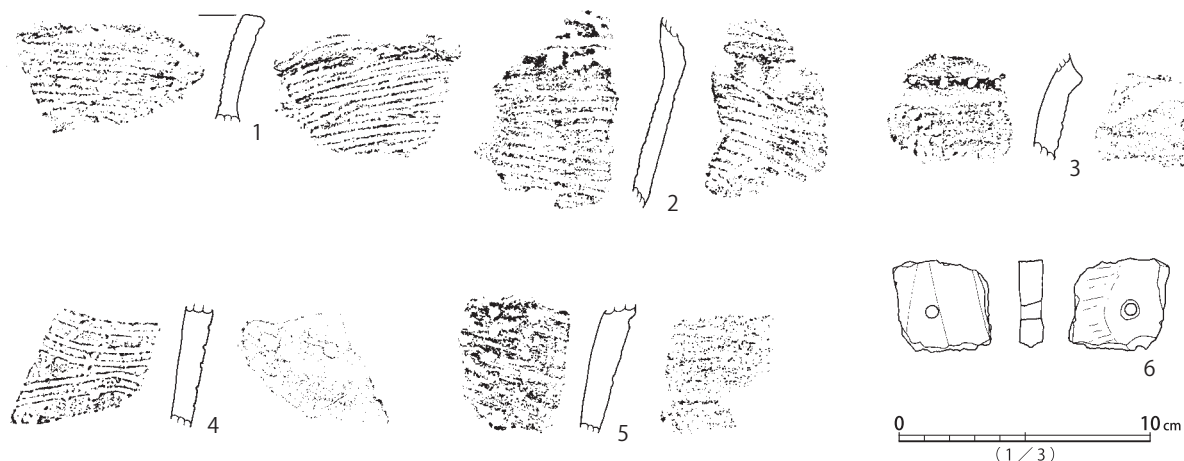
第3トレンチ・・・縄文時代（早期後葉）条痕文系9点、擦痕系26点、古墳時代前期14点。

出土遺物を瞥見すると、条痕文系土器にも有紋土器と無紋土器とがみられ、有紋土器には半裁竹管による押引意匠紋などが見受けられる。各々の特徴からみて、茅山下層式と考えられる。また、第1トレンチからは、半裁竹管による平行沈線紋が出土している。縄文時代前期後葉（浮島Ⅰ式）であろう。

参考文献 近藤敏2006「辰巳台遺跡群辰巳ヶ原地区」『平成17年度市原市内遺跡発掘調査報告』



第21図 辰巳台遺跡群第2地点遺構配置図



第22図 辰巳台遺跡群第2地点出土遺物実測図

8 菊間遺跡群 深道地区C地点（遺構：図版5／出土遺物：図版10）

遺跡の位置と周辺の調査状況 市原台地北辺の村田川左岸標高20m前後の平坦な台地上中央に位置し、北と東は村田川中流の氾濫原、西は北方向から侵刻谷が入り込み比高差は10mほどである。当地区から北へ300mには菊間遺跡（中村1974）があり、その調査以来、遺跡群では数十回の調査が実施されている。菊間国造（前之園2001）に連なる墓域と見られるほか、その母体となった弥生時代中期から後期の拠点集落の広がりが想定でき、銅釧など稀少な遺物も出土している（小川2004）。

第23図は菊間古墳群測量調査（永沼1995）の各古墳の集成図であり、東関山古墳（木對2004）、北野天神山古墳、姫宮古墳等の大型古墳に挟まれた地域が、今回調査対象である深道地区C地点と、深道地区A・B地点（報告は菊間深道遺跡）（高橋1994、田所1995）になっている。

遺構と遺物 調査前は畑地となっており、遺構確認面は耕作土下に、すぐ検出される。第24図第1～3、5トレンチは遺構確認面が褐色ハードローム面と同じレベルなので、ソフトロームは既になく、周辺の古墳造営時に取り去られた可能性がある。包含層が全くなく、調査対象面積に対して遺物量は少なく、第4トレンチの東関山古墳の周溝と推測される溝からも遺物出土は少量である。

遺構は第1トレンチの攪乱層脇に弥生時代後期の住居跡が半壊状態で検出され、床面上に甕（第25図1）が潰れた状態でA-A'●印に出土している（第24図①）。第2トレンチ北西側に弥生時代後期の住居跡があり、当該時期の遺物が検出されている。第2トレンチ南東側にはキサゴ、ハマグリが混じる貝層が検出され、出土状態から、中世の地下式坑の出入口の閉鎖貝層と推定した。第3トレンチは明確な遺構がなく、第4トレンチからの溝状遺構の連続と推測されるが、時期が判明する出土遺物はない。第4トレンチは東関山古墳の周溝を横断しており、その位置は、前方部と後円部の接合部分に当たると推測される。墳丘側に弥生時代の住居跡が残り、周溝縁に硬化面が検出されたが詳細は不明である。東関山古墳周溝は深さが約1mあり、その周溝底は平坦である。周溝からは埴輪片が出土しているが小片であり、周辺からの流れ込みの可能性が高い。周溝外辺部分は、立ち上がりが不明確であり、新しい溝状遺構に掘削されている。周溝外縁端に、古代末の杯（第25図11）がD-D'▲印位置で出土しており（第24図①）、早い段階で周溝が埋まり平坦化していると考えられる。第5トレンチの遺構は、焼土を伴う土坑で土層から中世以降の時期と推測されるが、遺物の出土はなかった。

参考文献

小川浩一2004「菊間遺跡群・東関山古墳」『市原市文化財センター年報平成13・14年度』（財）市原市文化財センター

木對和紀2004「東関山古墳」『平成15年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

高橋康男1994「菊間深道遺跡」『平成5年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

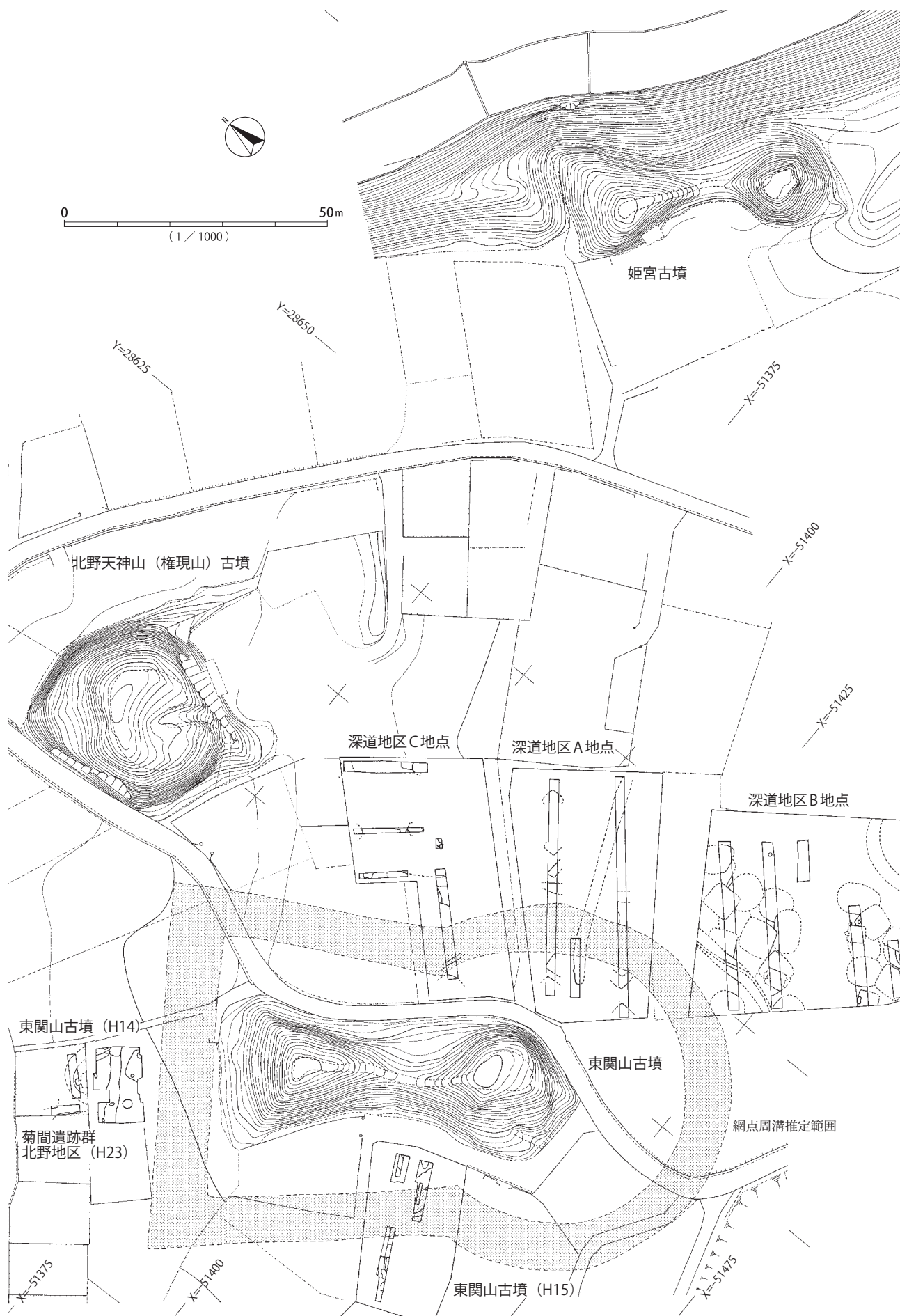
田所真・忍澤成規2003「菊間遺跡群・東関山古墳」『平成14年度市原市内緊急発掘調査概要』市原市教育委員会

田所真1995「菊間深道遺跡B地点」『平成6年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

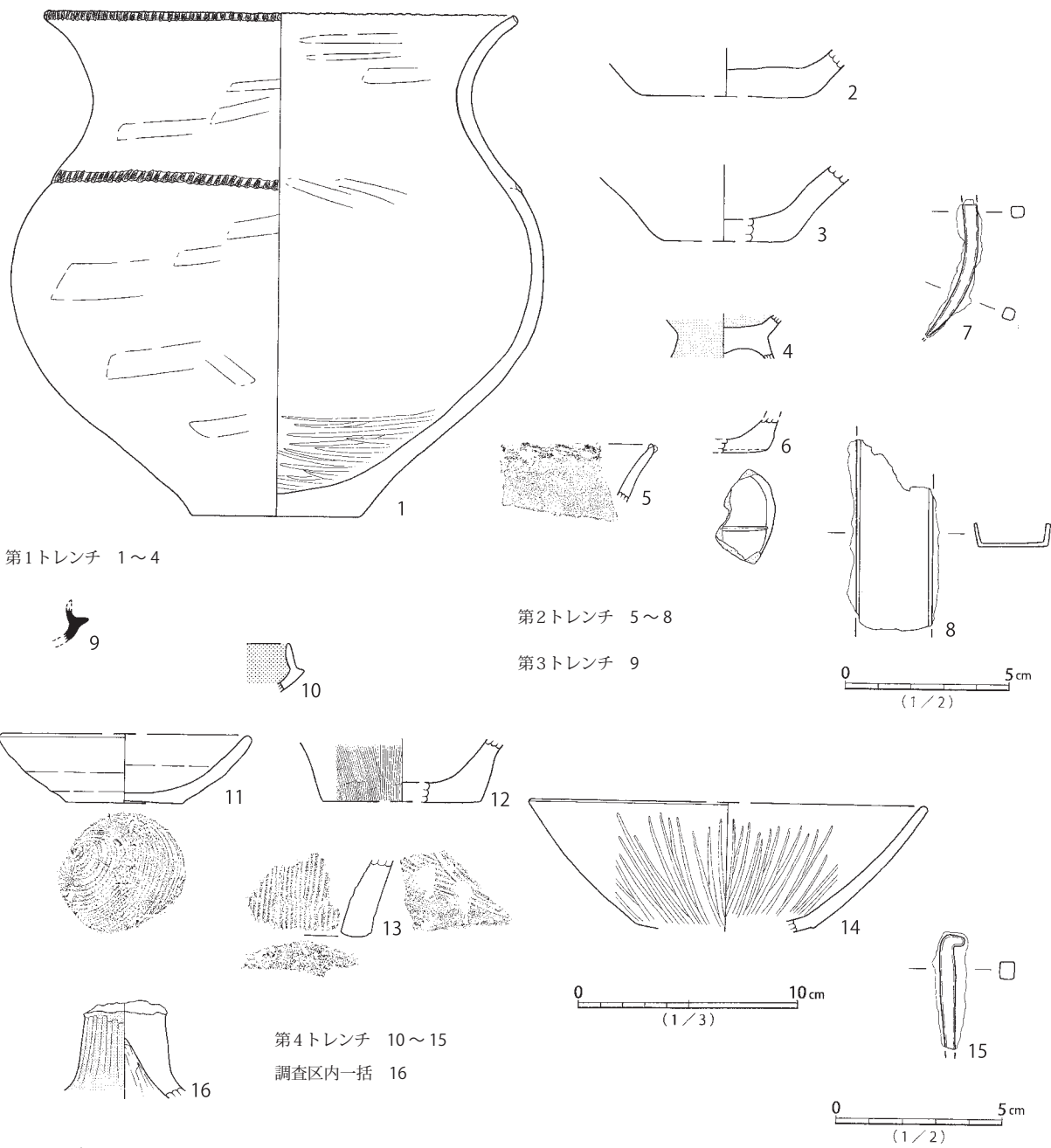
中村恵次ほか1974『菊間遺跡』千葉県都市部（財）千葉県都市公社

永沼律朗1995『千葉県重要古墳群測量調査報告書―市原市菊間古墳群』千葉県教育委員会

前之園亮一2001「菊間国造について」『歴史散歩資料市原市菊間周辺の遺跡と文化財』市原市歴史と文化財シリーズ第六輯 市原市地方史研究連絡協議会



第23図 菊間遺跡群深道地区C地点と菊間古墳群



第25図 菊間遺跡群深道地区C地点出土遺物実測図

9 市原城跡 辻地区第2地点（遺構：図版6／出土遺物：図版10）

遺跡の位置と周辺の調査状況 市原台地中央部標高21 m前後のやや起伏のある台地上の北部に位置し、北と西側は海岸平野となっており、当調査区は北西方向から侵刻谷が入り込む谷頭部分となっている（第10図）。遺跡は中世の市原城跡として広く周知されており（田中1998）、その中には光善寺廃寺（宮本2000）、古代道跡（佐々木1994）等の遺跡が混在している。上総国府関連の調査も南側の郡本遺跡群内で十数次の調査が実施され（牧野2011）、奈良平安時代から中世までの遺構遺物が検出されている。市原地区の調査は当調査区南側方向20 mに辻地区第1地点があり、奈良平安時代の大規模な掘立柱建物跡が数棟検出されており、布目瓦、磚等が出土している（田中2011）。

遺構と遺物 今回の調査区では第1トレンチ、第2トレンチ共に、上辺幅5 m～4 mの中世の溝状遺構（網点部）を検出している（第26図）。断面図A-A'、C-C'の網点部分のような逆三角形の断面形状を示す。遺物は第27図のとおりだが、直接遺構に伴うものはなく、多くは溝状遺構覆土より得られたもので、布目瓦、土師器、須恵器、中世陶器が出土している。第2トレンチ溝状遺構北側では土坑、ピットが検出されたが出土遺物がなく、詳細は不明である。中世溝状遺構南辺は第1、第2トレンチの断面図B-B'とD-D'下部に硬化土層面を検出しており、数面に亘って踏み固められた状況が観察できるので、道路状遺構と推定される。硬化面は標高20 m下に位置し、溝状遺構外調査区北辺の地山ロームの標高より20～40 cm低く、本来の道路遺構面が推定される。

中世溝状遺構が古代の道路遺構をトレースしながら掘削される事例は、市原市山田橋表通遺跡（蜂屋1999）や大山台遺跡（大村2004）で検出されており、同様な事例の可能性がある。遺構確認面において、地山ロームの標高が辻地区第2地点20.2 m、同第1地点21.0 m前後と、1 m近い落差が認められる。それらは、単に地形上の段丘傾斜の落差に加えて、道路と建物遺構の性格による選択の可能性が高いと考えられる。

参考文献

大村直 2004 「溝（道路跡）」『市原市大山台遺跡』（財）市原市文化財センター

佐々木虔一 1994 「日本古代の交通路とその特色」『古代上総国の嶋穴駅と官道』市原市文化財研究会第一輯
市原市文化財研究会

田所真 1999 「市原の神社と柳楯神事」『歴史散歩資料市原市郡本周辺の遺跡と文化財』市原市歴史と文化財シリーズ第四輯市原市地方史研究連絡協議会

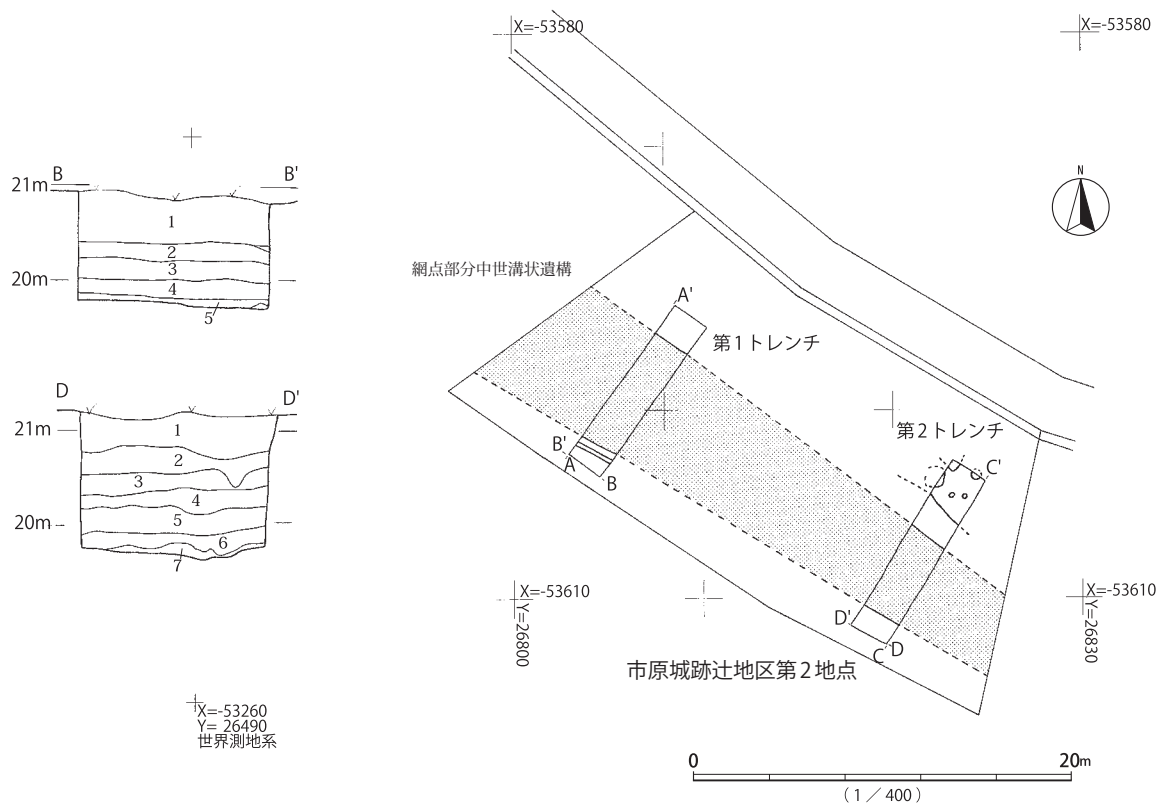
田中清美 1998 『市原市市原城跡』（財）市原市教育委員会

田中清美 2011 「市原市城跡辻地区」『平成22年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

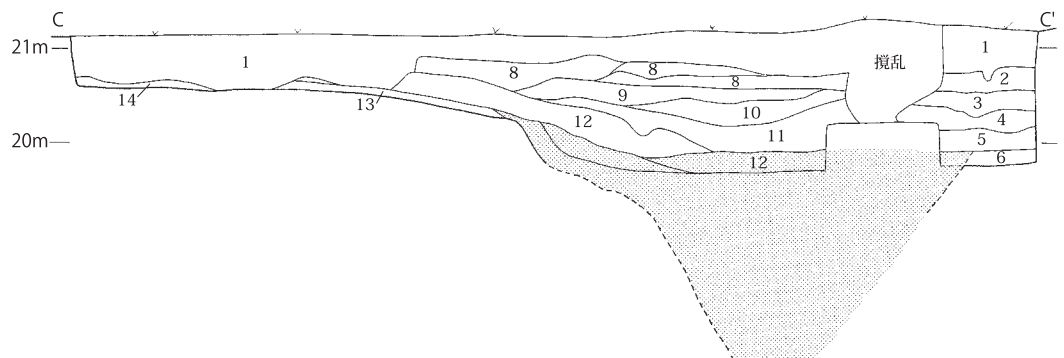
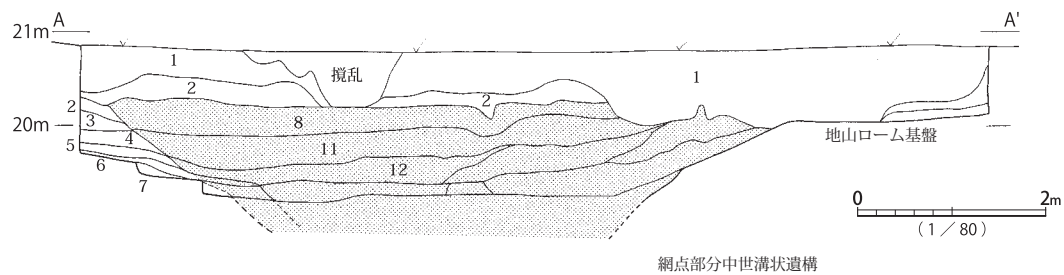
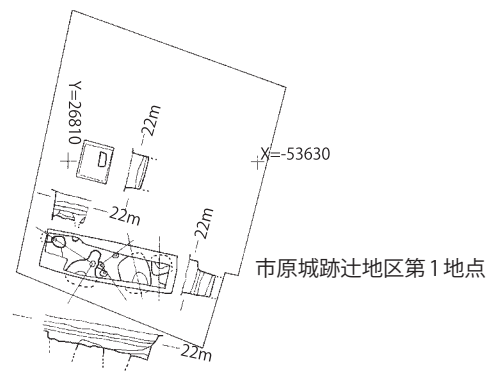
蜂屋孝之ほか 1999 『山田橋表通遺跡』（財）市原市文化財センター

牧野光隆 2011 「郡本遺跡群14次」『平成22年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

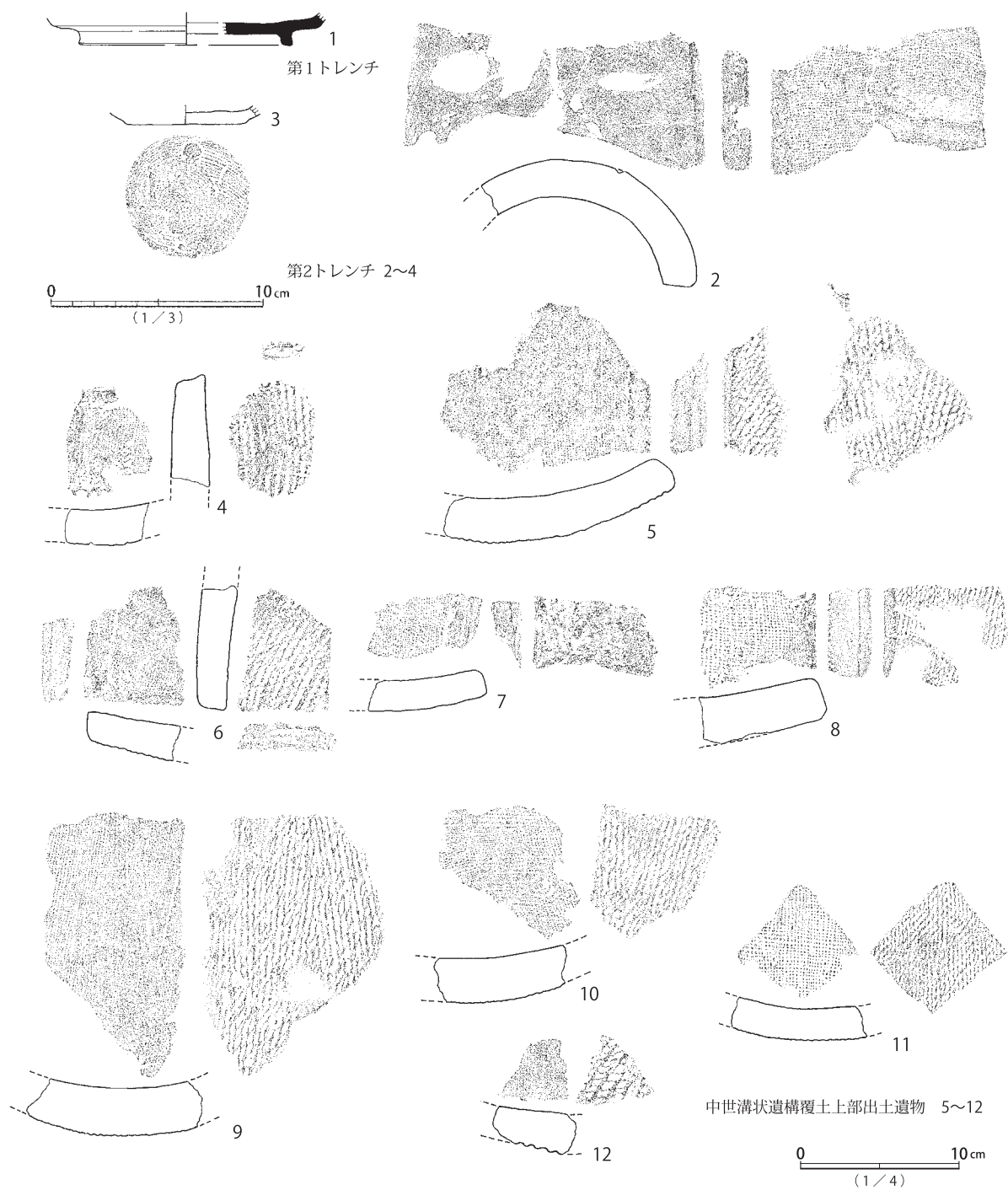
宮本敬一 2000 「光善寺廃寺跡」『歴史散歩資料市原市能満周辺の遺跡と文化財』市原市歴史と文化財シリーズ
第五輯市原市地方史研究連絡協議会



- 1 現表土 混瓦礫暗褐色土層
- 2 混白色粘土粒、黄褐色ローム粒暗灰褐色土層
- 3 混黄褐色ローム粒灰褐色土層
- 4 混多い黄褐色ローム粒褐色土層
- 5 硬化混ローム粒褐色土層
- 6 硬化横縞模様混ローム粒褐色土層
- 7 混ロームブロック褐色土層
- 8 灰褐色土層
- 9 混ローム粒灰褐色土層
- 10 明褐色土層
- 11 混ローム小ブロック褐色土層
- 12 混ローム粒褐色土層
- 13 暗褐色土層
- 14 褐色土層(地山ローム漸移層)



第26図 市原城跡辻地区第2地点平面図・断面図



第27図 市原城跡辻地区第2地点出土遺物実測図

10 山新遺跡 永津前地区 (遺構：図版6／出土遺物：図版10)

遺跡の位置 遺跡は、市原市南部の姉崎地区にあり、北方約1kmの東京湾岸に展開する沖積平野の奥部に位置し、南には姉崎天神山古墳を乗せる標高35m前後の姉崎台地が迫っている。遺跡が存在する沖積地は、これまでの調査遺跡によって、沖積地に形成された砂堆列を中心に縄文時代晩期から古墳時代の遺構が展開していることがわかっている。当地点は、隣接する南側に県道が横断していることから、砂堆列付近に位置していることが予想され、前述期の遺構の存在が想定された。

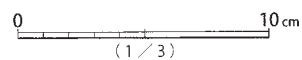
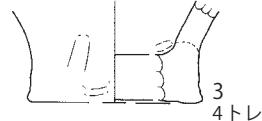
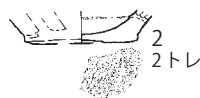
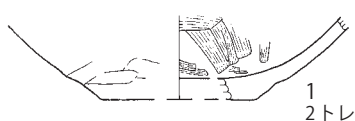
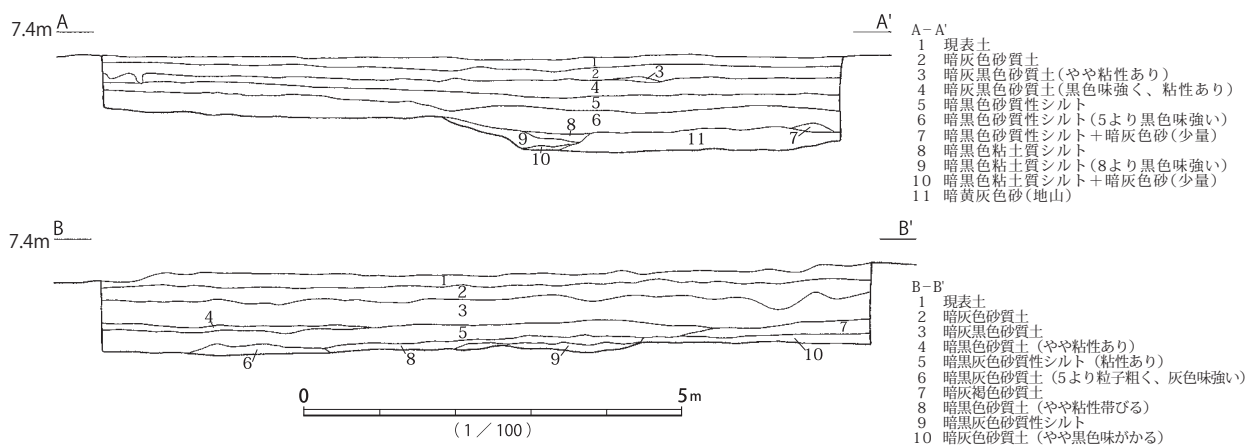
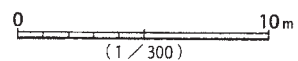
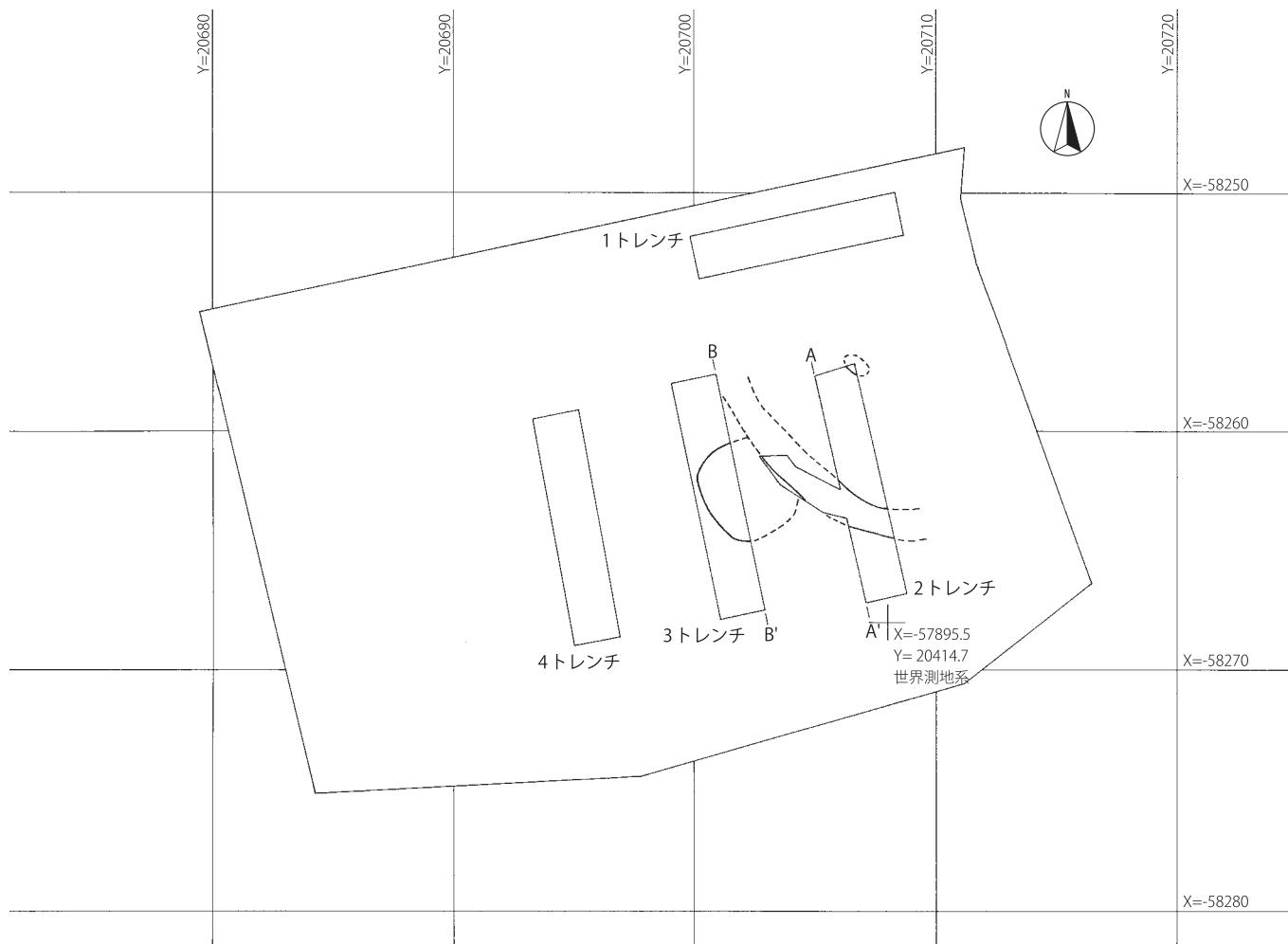
調査概要 今回は、高齢者福祉施設の設置に先立って確認調査が行われ、調査対象面積750㎡に対し、4本のトレンチ計75.0㎡を設定した。その結果、1・4トレンチからは、遺構が確認されなかったが、2トレンチより、古墳時代前期の溝状遺構1条、3トレンチより、弥生時代後期の竪穴建物跡の可能性がある土坑1基を確認した。

遺構と遺物 2トレンチから古墳の可能性もある溝状遺構を確認した。確認した平面規模は11.8×2.2m、深さは0.22mを測る。北西方向から、ゆるやかに弧を描きながら、南東方向へ向かっていく。調査前の予想に反し、南の県道に向かって地山である砂堆層が落ち込んでいく状況が見られ、南東部分は、激しい湧水と、泥質化した黒色粘土によって、地山を確認できず、正確な溝状遺構のプランを追尾できなかったが、規模の大きな円墳となる可能性は捨て切れない。

遺物は溝状遺構より、古墳時代前期の土師器甕底部1が出土している。3トレンチでは、竪穴建物跡の可能性もある土坑を確認した。確認した平面規模は7.9×3.1m、深さは0.1m程を測る。遺物は図示できなかったが、弥生時代後期の土器片が出土している。他には、4トレンチより、古墳時代前期と考えられる土師器小型甕底部3が、出土している。



第28図 山新遺跡永津前地区周辺地形図



第29図 山新遺跡永津前地区遺構配置図・遺物実測図

11 出土遺物観察表

郡本遺跡群 (第15次) セ493

以下、単位はcm

図番号	出土地点 遺構	注記	種別	器種	口径 残存	底径	底径 残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整・特徴	その他
3 1	5トレンチ	3・4	瀬戸美濃	平碗	16.0	5.2	1/1	—	6.3	黄灰色・緻密/白色粒(～1mm)少量	良好	釉：オリーブ黄/素地：灰白	内外面ロクロナデ・施釉(掛け掛け)・高台削り出し/内面施釉・目跡5箇(9x4)箇	第4型式 後1期
3 2	5トレンチ	6・7・8	カワラケ	杯	13.1	7.2	3/4	—	3.6	赤(～1mm)・白(～0.5mm)・骨針少量	良好	明褐色	内外面ロクロナデ・底面回転系切り後施調整	白釉減II
3 3	6トレンチ	3	カワラケ	杯	11.2	5.2	1/4	—	2.6	赤・白(～0.5mm)・雲母・骨針少量	良好	褐～暗褐色	内外面ロクロナデ・底面回転系切り後施調整	15世紀
3 4	16トレンチ	3	カワラケ	杯	—	6.7	1/3	—	—	白(～0.5mm)・雲母・骨針少量	良好	褐～暗褐色	内外面ロクロナデ・底面回転系切り後施調整	第4型式 後1期
3 5	16トレンチ	6	瀬戸美濃	平碗	—	5.2	1/4	—	—	灰白色・緻密	良好	釉：浅黄/素地：灰白	内外面ロクロナデ・高台削り出し/内面施釉	第4型式 後1期
3 6	21トレンチ	1	龍泉窯系青磁	碗	—	4.8	1/3	—	—	灰～灰白色・緻密/白色粒(～0.5mm)少量	良好	釉：明緑灰/素地：灰白	内外面ロクロナデ・施釉・高台削り付け/内面施釉	B-I類
3 7	22トレンチ	1	常滑	片口鉢類	—	—	—	—	—	灰白色・緻密/白色粒(～0.5mm)少量	良好	明灰	内外面ロクロナデ	3期式
3 8	23トレンチ	3	土製品	土鍋	—	—	—	1.6	4.6	白(～0.5mm)・雲母少量	良好	褐～黒褐色	—	10.0g
3 9	28トレンチ	1	土器	砥石	—	—	—	5.0	8.7	—	—	—	5面使用	98.0g

郡本遺跡群 (第16次) セ494

図番号	出土地点 遺構	注記	種別	器種	口径 残存	底径	底径 残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整・特徴	その他
4 1	2トレンチ	2トレ-1	土師器	脚高台付杯	—	—	—	—	—	φ 1mm程の赤褐色粒少量含む	良	外2.5Y4/2暗灰黄色 内10YR6/3にぶい黄褐色	外ナデ	—
4 2	2トレンチ	2トレ-2	鉄器	釘	—	—	—	—	—	—	—	7.5YR3/3暗褐色	—	3.25×1.0×0.4cm
4 3	4トレンチ	4トレ-1	瓦	平瓦	—	破片	—	—	—	白色・灰色極小粒多量含む	良	2.5YR6/3にぶい黄色	ヘラナデ	4.2×2.5×3.1cm
4 4	4トレンチ	4トレ-1	鉄滓	—	—	破片	—	—	—	—	—	10YR3/2黒褐色	—	2.95×2.3×2.2cm
4 5	5トレンチ	5トレ-2	土師器	転用枡施車	—	—	—	—	—	黄褐色極小粒微量、骨針含む	良	10YR6/4にぶい黄褐色	—	5.3×5.1×1.0cm 孔φ0.6cm 24.9g
4 6	本調査区	SX-1-1	土師器	碗	—	破片	1/3	—	—	赤褐色・灰色・黄褐色極小粒少量	良	外10YR6/3にぶい黄褐色 内10YR2/1黒色	ロクロ	内黒
4 7	本調査区	本調査区	土師器	杯	—	破片	1/4	—	—	φ 1mm以下の赤褐色粒微量含む	良	7.5YR4/3褐色	ロクロ	静止系切無調整
4 8	本調査区	—	常滑	甕	—	破片	不明	—	—	φ 1mm以下の白色粒少量含む	良	5YR4/3にぶい赤褐色 ～5YR6/4オリーブ黄	ナデ	6a型式
4 9	本調査区	本調査区	常滑	甕	—	破片	—	—	—	白色小粒微量含む	良	10Y5/2オリーブ灰	—	新寛永
4 10	本調査区	SK-4	銅鏡	寛永通宝	—	—	—	—	—	—	—	7.5YR7/4にぶい黄褐色	ロクロ	—
5 1	SD-1	SD-1	土師器	杯	(13.0)	破片	—	(13.1)	—	φ 1mm以下の赤褐色粒多量含む	良	10YR6/3にぶい黄褐色	ロクロ	—
5 2	SD-1	SD-1	土師器	杯	(12.9)	破片	—	(13.0)	—	φ 1mm程の赤褐色・灰色粒微量含む	良	外10YR6/3にぶい黄褐色 内10YR7/4にぶい黄褐色	ヘラナデ?	—
5 3	SD-1	SD-1-5	土師器	甕	—	破片	—	—	—	黄褐色・灰色極小粒多量含む	良	2.5YR7/2灰黄色	外・並行叩き	—
5 4	SD-1	SD-1-7	須臾器	転用硯 or 砥石	—	破片	—	—	—	φ 1mm程の黒色粒多く、 1mm以下の灰色粒微量含む	良	外2.5Y7/1灰白色 内2.5Y5/2暗灰黄色 一部7.5YR6/3にぶい褐色	外・並行叩き	朱墨?
5 5	SD-1	SD-1-8	須臾器	転用硯	—	破片	—	—	—	φ 1mm～1mm以下の白色粒少量含む	良	表2.5Y6/3にぶい黄色 裏2.5Y6/4にぶい黄色	細目叩き	6.3×5.5×3.2cm
5 6	SD-1	SD-1-10	瓦	平瓦	—	破片	—	—	—	白色・灰色極小粒多量含む	良	表2.5Y5/2暗灰黄色 裏2.5Y6/2灰黄色	細目叩き	5.5×4.4×2.9cm
5 7	SD-1	SD-1-2	瓦	平瓦	—	破片	—	—	—	白色・灰色極小粒多量含む	良	表2.5Y5/4黄褐色 裏2.5Y4/2暗灰黄色	細目叩き	6.4×6.0×3.4cm
5 8	SD-1	SD-1-3	瓦	平瓦	—	破片	—	—	—	白色・灰色極小粒多量含む	良	2.5Y8/3淡黄色	4.9cm×2.1cm× 1.2cm	3面/枚組
5 9	SD-1	SD-1	石製品	砥石	—	破片	—	—	—	—	—	—	—	製造・金銅製の可 能性 1.4g
5 10	SD-1	SD-1-4	銅製品	鈴	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.8g
5 11	SD-1	SD-1-4	鉄	玉	—	1/2	—	—	—	—	—	10Y5/2オリーブ灰	—	不整形

君塚クワノ木古墳セ497

図番号	出土地点 遺構	注記	種別	器種	口径 残存	底径	底径 残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整・特徴	その他
9 1	001	6	土師器	埴	—	3.2	1/1	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・石英(～ 0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少 量・小石粒(～2.0mm)微量	良好	赤褐色	外面ヘラケズリ・ヘラナデ・全面・赤彩/内 面ヘラナデ・全面・赤彩	—
9 2	001	6	弥生	甕	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・石英(～ 0.5mm)微量	良好	褐色	外面口唇部ヘラ状工具による刻み目施す・口 縁部ヨコナデ・体部ヘラナデ/内面口縁部ヨ コナデ・体部ヘラナデ・ハケメ一部残る	—
9 3	001	6	土師器	杯	—	—	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～ 0.5mm)少量	良好	褐色～赤褐色	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケズリ・赤彩 /内面口縁部ヨコナデ・全面・赤彩	—

君塚クワノ木古墳 ㇼ497

図番号	出土地点 通稱	注記	種別	器種	口径	口径 残存	底径	底径 残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整・特徴	その他
9 4	001	6	カワラケ	小皿	—	—	(4.2)	1/3	—	—	黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量・金雲母粒(～0.5mm)微量	良好	にぶい黄褐	外面ロクロ調整・底部回転糸切り・削し後、糸切り痕を消すように、軽クナデている／内面ロクロ調整	中世
9 5	001	6	石製品	砥石	現存長 (3.1)	—	幅 (2.8)	—	厚さ (1.9)	—	—	—	—	安口型。両側面の研磨痕著しく、右側面に擦痕あり。上下端部及び裏面・欠	35.7g (古寛永6)
9 6	1トレンチ	2	銅製品	銭貨	現存長 (23.06)	—	幅 (23.07)	—	厚さ (1.21)	—	—	—	—	孔径6.51×6.26mm ※7と圧着して出土	寛永通宝 (古寛永6)
9 7	1トレンチ	2	銅製品	銭貨	現存長 (22.61)	—	幅 (22.71)	—	厚さ (1.08)	—	—	—	—	孔径6.43×6.51mm ※6と圧着して出土	寛永通宝 1.9g
9 8	2トレンチ	5	銅製品	銭貨	現存長 (22.54)	—	幅 (22.57)	—	厚さ (1.28)	—	—	—	—	孔径6.23×6.20mm ※裏面に「元」あり	寛永通宝 2.2g
9 9	4トレンチ	4	銅製品	銭貨	現存長 (22.92)	—	幅 (23.08)	—	厚さ (0.98)	—	—	—	—	孔径6.45×6.58mm	寛永通宝 2.6g
9 10	3トレンチ	3	銅製品	銭貨	現存長 (24.38)	—	幅 (24.42)	—	厚さ (0.75)	—	—	—	—	孔径7.29×7.51mm 北末銭 初鑄年：天和元年 (1054) ※10～14は、圧着して出土	至和通宝 2.2g
9 11	3トレンチ	3	銅製品	銭貨	現存長 (23.80)	—	幅 (23.61)	—	厚さ (1.23)	—	—	—	—	孔径6.96×6.66mm 北末銭 初鑄年：紹徳元年 (1094) ※10～14は、圧着して出土	紹徳元宝 3.4g
9 12	3トレンチ	3	銅製品	銭貨	現存長 (23.89)	—	幅 (23.80)	—	厚さ (0.82)	—	—	—	—	孔径6.39×6.36mm 北末銭 初鑄年：元徳元年 (1078) ※10～14は、圧着して出土	元徳通宝 2.3g
9 13	3トレンチ	3	銅製品	銭貨	現存長 (24.94)	—	幅 (24.98)	—	厚さ (1.03)	—	—	—	—	孔径6.61×7.01mm 北末銭 初鑄年：天徳元年 (1023) ※10～14は、圧着して出土	天徳元宝 3.1g
9 14	3トレンチ	3	銅製品	銭貨	現存長 (23.69)	—	幅 (23.89)	—	厚さ (1.00)	—	—	—	—	孔径6.06×5.98mm 北末銭 初鑄年：景徳元年 (1044) ※10～14は、圧着して出土	景徳元宝 3.2g
9 15	3トレンチ	一括	銅製品	銭貨	—	—	幅 (23.01)	—	厚さ (1.27)	—	—	—	—	裏面に「大日本 大正十一年」あり	桐1銭青銅貨 (大正時代) 3.4g

市原城跡 (門前地区) ㇼ496

図番号	出土地点 通稱	注記	種別	器種	口径	口径 残存	底径	底径 残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整・特徴	その他
13 1	1	12	土師器	杯	12.6	1/1	6.0	1/1	—	4.7	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量・雲母(～0.5mm)微量	良好	明黄褐	外面ロクロ調整・体部下端回転ヘラケズリ・底面回転ヘラケズリ(反時計回り)／内面ロクロ調整	12号跡出土遺物
13 2	1	15	土師器	杯(皿)	10.0	2/3	4.2	1/1	—	2.4	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量・赤色粒(～1.0mm)微量・石英(～0.5mm)微量	良好	明赤褐	外面ロクロ調整・底面回転糸切り／内面ロクロ調整	12号跡出土遺物
13 3	1	14	カワラケ	小皿	9.6	1/1	5.6	1/1	—	2.6	緻密。黒色粒(～0.5mm)微量・含有物ほとんどなし	良好	橙	外面ロクロ調整・底面回転糸切り／内面ロクロ調整・見込みナデか	12号跡出土遺物
13 4	1	11	土師器	杯	9.8	2/3	5.2	1/1	—	2.6	赤色粒(～2.0mm)微量・石英粒(～0.5mm)少量・混ざり物の少ないカワラケのような胎土	良好	にぶい黄褐	外面ロクロ調整・底面回転糸切り／内面ロクロ調整	12号跡出土遺物
13 5	1	4.13.19	土師器	足高 高台杯	—	—	8.4	2/3	—	—	赤色粒(～1.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・雲母(～0.5mm)微量	良好	にぶい褐／純灰	外面ロクロ調整・底面回転ヘラケズリ後付け 新台／内面ロクロ調整・杯部黒色処理	12号跡出土遺物
13 6	1	9	土師器	高台杯	—	—	(7.6)	1/4	—	—	白色粒(～0.5mm)微量	良好	にぶい黄褐	外面ロクロ調整・底面回転ヘラケズリ後付け 高台／内面ロクロ調整	12号跡出土遺物
13 7	1	45	土師器	高台杯	—	—	6.2	3/4	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)少量・赤色粒(～0.5mm)微量	良好	明赤褐	外面ロクロ調整・底面回転ヘラケズリ後付け 高台／内面ロクロ調整	12号跡出土遺物
13 8	1	18	土師器	甕	(23.6)	1/3	—	—	—	—	白色粒(～1.0mm)少量・黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)微量・小石粒(～2.0mm)微量	良好	にぶい赤褐～黒褐 ／にぶい褐	外面ロクロ調整・底面回転ヘラケズリ後付け 口縁部ヨコナデ・体部ヘラナデ	12号跡出土遺物
13 9	1	47	弥生	甕	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・赤色粒(～0.5mm)微量	良好	にぶい赤褐	外面折り返し口縁・口唇部斜縄文・端部はヘラ工具による刻み目・頸部赤彩／内面ヘラミガキ・赤彩	
13 10	1	36	弥生	鉢	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)少量	良好	赤褐	外面折り返し口縁・口唇部斜縄文・口縁部は羽状縄文・下端部には縄文原体による刻み目・焼成前に凹孔を穿つ・無文部ヘラミガキ・赤彩／内面ヘラミガキ・赤彩	
13 11	1	47	弥生	鉢	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)少量	良好	明褐	外面折り返し口縁・口唇部斜縄文・口縁部羽状縄文・下端部には縄文原体による刻み目／内面ナデ	
13 12	1	22	弥生	甕	—	—	—	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)少ない・小石粒(～1.5mm)少量・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)少量	良好	橙	外面折り返し口縁・口唇部ヘラ工具による刻み目・頸部ナデ／内面ナデ	
13 13	1	22	弥生	甕	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～1.0mm)微量・石英(～0.5mm)微量・赤色粒(～1.0mm)微量	良好	橙	外面折り返し口縁・口唇部羽状縄文・端部縄文原体による刻み目／内面器面摩耗により、判別できず赤彩か	

市原城跡 (門前地区) セ496

図番号	出土地点 遺構	注記	種別	器種	口径	口径 残存	底径	底径 残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整・特徴	その他
14 14	1	23	弥生	鉢	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量・小石粒(～2.0mm)微量	良好	明赤褐	外面折り返し口縁・下端部に縄文原体による刻み目・口縁部へ上部に羽状縄文・内面ナデ・ヘラナデ	
14 15	1	—	土師器	甕	—	—	(10.0)	1/3	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)少量	良好	灰黄褐	外面／ロクロ調整・底部回転系切り／内面口クロ調整	12号跡出土遺物
14 16	1	18	土師器	甕	—	—	5.3	1/1	—	—	黒色粒(～0.5mm)少ない・白色粒(～0.5mm)少量	良好	褐	外面ヘラケズリ・底部静止ヘラケズリ／内面ヘラナデ・黒ずんでいる	12号跡出土遺物
14 17	1	78	弥生	壺	—	—	(5.6)	1/4	—	—	白色粒(～1.0mm)少ない・黒色粒(～0.5mm)少量	良好	にぶい褐～黒／明赤褐	外面ヘラナデ・赤彩部ヘラミガキ・内面ナデ	12号跡出土遺物
14 18	1	33	縄文	浅鉢	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少ない・黒色粒(～1.0mm)微量・赤色粒(～0.5mm)微量・小石粒(～2.0mm)微量	良好	褐／黒	上部に刻み施す。胴部、斜位の条線	加曽利B式
14 19	1	45	瓦	平瓦	長さ (4.1)	—	幅 (3.1)	—	厚さ 1.5	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・赤色粒(～1.0mm)少ない	良好	明褐	凹面布目痕／凸面縄目叩き痕(左擦り)	狭面面のみ縄 12号跡出土遺物の 可能性高い
14 20	1	45	土師器	杯	—	—	4.0	1/1	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)微量	良好	橙	外面／ロクロ調整・底部回転系切り／内面口クロ調整	14.9g 12号跡出土遺物の 可能性高い
14 21	1	17	石器	磨石	長さ 11.3	—	幅 7.2	—	厚さ 4.3	—	—	—	暗赤灰	裏面一面のみ摩耗 表面は液熱を受けた事によるひびが入っており、磨礫に転用か	486.0g
14 1	2	6	弥生	鉢	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量	良好	橙	外面口唇部縄文原体による刻み目・口縁部S字状縄文で区画された羽状縄文・無文部、赤彩／内面ヘラミガキ・赤彩	
14 2	2	3	弥生	壺	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・赤褐色粒(～0.5mm)微量	良好	明黄褐	外面口唇部斜縄文・口縁部羽状縄文・縄文原体による刻み目がある棒状浮文付く／内面横位のヘラミガキ	
14 3	2	6	弥生	甕	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量・赤褐色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量	良好	橙	外面口唇部ヘラ状工具による刻み目／内面ナデ	
14 4	2	2	土師器	甕	—	—	(7.6)	1/3	—	—	白色粒(～1.0mm)微量・小石粒(～2.0mm)微量	良好	浅黄橙	外面ヘラケズリ／内面ヘラナデ	
14 1	3	1	土師器	杯	13.8	1/1	6.8	1/1	—	4.4	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量・赤色粒(～1.0mm)微量	良好	橙	外面／ロクロ調整・底部回転系切り／内面口クロ調整	
14 2	3	3	白磁	輪花皿	(10.2)	1/4	(4.0)	1/4	—	(2.5)	緻密	良好	灰白	外面／ロクロ調整・口縁部輪花(12弁か)／内面口クロ調整	
14 3	3	13	弥生	壺	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少ない・黒色粒(～1.0mm)少量・石英(～0.5mm)微量	良好	褐	外面S字状縄文で区画された斜縄文めぐる。無文部、ヘラミガキ後赤彩／内面ナデ	
14 4	3	13	弥生	甕	—	—	—	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)少量・白色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量	良好	明褐	ヘラ状工具による刻み目・口縁部ナデ／内面ナデ	
14 5	3	4	鉄製品	錠か	現存長さ (6.3)	—	幅 0.5	—	厚さ 0.2	—	—	—	—	—	6.8g 両端部、欠失
14 6	3	2	鉄製品	鉢	現存長さ (7.3)	—	幅 2.2	—	厚さ 0.4	—	—	—	—	握り部、欠失するが、二枚の片の後端が8字形ではなくU字形を見出すと考えられる。刃部に一部、布状の繊維が付着しており、袋に包まれていた可能性あり	14.6g
14 7	3	2	鉄製品	火打ち金	現存長さ (9.3)	—	幅 2.5	—	厚さ 0.4	—	—	—	—	3方を穿孔・成形後研削 材質はガラス。顆珠と考えられ、左右に中糸、下に房用の穿孔施す	48.6g 両端部、欠失
14 8	3	7	ガラス製品	数珠玉	現存長さ 2.38	—	幅 2.4	—	厚さ 1.9	—	—	—	—	外面ヘラナデ・ナデ／内面ナデ	14.5g
14 1	4	1	弥生	甕	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量	やや不良	灰黄褐／にぶい黄褐	外面ヘラナデ・ナデ／内面ナデ	
14 2	4	1	弥生	壺	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・赤色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量	良好	橙／赤褐	外面折り返し口縁・口唇部縄文原体による刻み目・無文部赤彩／内面赤彩	内・外面共摩耗著しい
14 3	4	1	弥生	鉢	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量	良好	橙	外面折り返し口縁・口唇部斜縄文・口縁部羽状縄文／内面ナデ	
14 4	4	1	弥生	壺	—	—	—	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)少量・白色粒(～0.5mm)少量・小石粒(～1.0mm)微量・石英(～0.5mm)微量	良好	黄褐	外面沈線に区画された中に斜縄文・無文部赤彩／内面ナデ・ヘラミガキ・赤彩か	
14 5	4	1	石器	砥石	—	—	—	—	—	—	—	—	赤褐	表面及び下端部に摩耗痕・表面の摩耗著しい・磨礫あり 泥岩	35.8g 裏面欠失

市原城跡 (門前地区) 七496

図番号	出土地点 遺構	注記	種別	器種	口径	口径 残存	底径	底径 残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整・特徴	その他
14 1	5	7	弥生	壺	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量・小石粒(～0.5mm)微量	良好	明赤褐	外面折り返し口縁・口唇部斜縄文・端部ヘラ状工具による刻み目・口縁部・頸部斜縄文・内面ヘラナデ・ヘラミガキ・赤彩	
14 2	5	3	弥生	甕	—	—	—	—	—	—	小石粒(～0.5mm)少ない・黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量	良好	褐/灰黄褐	外面ヘラナデ/内面ナデ・ヘラナデ	
14 3	5	3	土師器	甕	—	1/2	6.8	—	—	—	白色粒(～1.0mm)少量・黒色粒(～0.5mm)少量・小石粒(～1.5mm)少量・石英(～1.0mm)微量	やや不良	明赤褐/黒褐	外面ヘラナデ・ヘラケズリ/内面ヘラナデ	煮炊き時の痕が付着し、黒色化している
14 4	5	7	土師器	甕	—	1/3	(6.0)	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～1.0mm)少量・白色粒(～0.5mm)微量	やや不良	にぶい黄褐/にぶい黄褐～黒褐	外面ヘラナデ・ヘラケズリ/内面ヘラナデ	煮炊き時の痕が付着し、黒色化している
14 5	5	1	弥生	壺	—	—	—	—	—	—	白色粒(～1.5mm)少ない・黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)微量	良好	赤褐/黄褐	外面胴部上半、沈線による連続山形文・無文部赤彩/内面ナデ	
14 6	5	8	瓦	平瓦	現存長 (5.3)	—	幅 (2.8)	—	厚さ 1.7	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量	良好	にぶい褐	外面布目痕/凸面縄目叩き痕(左擦り)	狭端面のみ残
14 1	6	1	カワラケ	小皿	8.3	1/3	5.8	1/3	—	1.8	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・赤色粒(～0.5mm)微量	良好	赤/橙	外面口コ調整・底部回転糸切り/内面口コ調整	
14 2	6	3	弥生	壺	—	—	—	—	—	—	白色粒(～1.0mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量	良好	褐/明赤褐	外面平行沈線内、羽状縄文めぐる・無文部赤彩/内面ヘラナデ	
14 3	6	4	瓦	丸瓦	現存長 (4.4)	—	幅 (3.4)	—	厚さ 1.6	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)少ない・石英(～0.5mm)微量	やや不良	にぶい褐/にぶい褐	凸面ナデ/凹面布目痕	側縁・端面全て欠
14 4	6	2	鉄製品	環状鉄製品	現存長 1.7	—	幅 1.6	—	厚さ 0.12	—	—	—	—	断面0.4×0.12cmの長方形を呈す	2.2g
14 5	6	6	銅製品	環状銅製品	現存長 (0.7)	—	幅 (1.8)	—	厚さ (0.15)	—	—	—	—	断面0.5×0.15cmの長楕円形を呈す	0.8g
14 1	7	1	弥生	壺	—	—	6.0	1/1	—	—	白色粒(～1.0mm)少量・黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～1.0mm)微量・赤色粒(～1.0mm)微量	良好	明黄褐	外面ヘラナデ/内面ヘラナデ・強いヘラナデ・全面赤彩	内面煮炊きのため黒色化している
14 2	7	12	弥生	甕	—	—	(6.4)	1/4	—	—	黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～1.0mm)微量・白色粒(～0.5mm)微量	良好	明褐	外面ヘラナデ/内面ナデ・ヘラナデ	
14 3	7	10	弥生	甕	—	1/3	(8.0)	1/3	—	—	黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)少量	良好	にぶい黄褐	外面ヘラナデ/内面ナデ	
14 4	7	12	弥生	壺	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量	良好	明赤褐/にぶい赤褐	外面頸部ヘラ状工具による刻み目・胴部S字状結節文で区画された羽状縄文めぐる/内面ヘラナデ	
14 5	7	1	弥生	壺	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量	良好	明赤褐/褐	外面斜行縄文帯に、連続山形文/内面ヘラナデ	
15 1	8	1	弥生	甕	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～1.0mm)少量	良好	明褐	外面輪積み痕部分に、竹管状工具による連続刺突文/内面ヘラナデ	
15 1	9	4	弥生	鉢	—	1/4	(7.0)	1/4	—	—	黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)少量	良好	褐	外面ヘラナデ/内面ナデ・ヘラナデ	
15 2	9	1	弥生	甕	—	1/4	(6.4)	1/4	—	—	黒色粒(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)少ない	良好	黒	外面ヘラナデ/内面ヘラナデ	
15 3	9	2	弥生	壺	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量	良好	明褐	外面連続山形文で区画された斜縄文がめぐる・黒文部赤彩/内面ナデ	
15 1	10	1.9	弥生	甕	—	—	—	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)微量	良好	明褐	外面頸部7段の輪積み痕残り指頭痕顕著に着体押捺による刻み目	口縁・底部全て欠
15 2	10	9,10,12	弥生	甕	—	—	—	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)微量	良好	赤褐	外面頸部1段の輪積み痕残り・ナデ・ヘラナデ	口縁・底部全て欠
15 3	10	11	弥生	甕	—	—	—	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)少量	良好	明赤褐	外面頸部1段の輪積み痕残り・頸部の輪積み痕部	口縁・底部全て欠
15 4	10	6,7,8,12	弥生	甕	(23.6)	1/6	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～1.0mm)少ない・石英(～1.0mm)微量・小石粒(～4.0mm)微量	良好	褐	外面口縁部ヘラ状工具による刻み目・口縁及び頸部輪積み痕残り・縦及び横方向のハケメ	底部欠
15 5	10	2,3,4,6,11	弥生	甕	—	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～1.0mm)少ない・石英(～0.5mm)微量・赤色粒(～0.5mm)微量	良好	褐/明赤褐	外面ヘラナデ・ナデ・一部ハケメ状のヘラナデ・頸部に一段の輪積み痕がすかに残るがナデ・輪積み痕消そうとしている/内面ナデ・ヘラナデ	口縁・底部全て欠

市原城跡（門前地区）セ496

図番号	出土地点 遺構	注記	種別	器種	口径 残存	底径	底径 残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整・特徴	その他
15 6	10	12	弥生	壺	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量	良好	黄褐/明黄褐	外面沈線及び連続山形文で区画された斜縄文がめぐる・無文部ヘラミガキ・赤彩/内面ヘラナデ	
15 7	10	13	弥生	壺	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・赤色粒(～0.5mm)微量	良好	明黄褐	外面沈線で区画された中に羽状縄文めぐる/内面ヘラナデ	
15 8	10	12	弥生	壺	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・赤色粒(～0.5mm)微量	良好	明赤褐	外面口縁外側端部縄文原体伸張による刻み目・口縁中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
15 1	11	2	弥生	甕	—	(6.0)	1/4	—	—	黒色粒(～0.5mm)微量・赤色粒(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)微量	良好	明黄褐/黒	外面ヘラナデ・底部静止ヘラケズリ/内面ナデ・ヘラナデ	
15 2	11	2	弥生	壺	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・赤色粒(～1.0mm)微量	良好	明赤褐	外面折り返し口縁・端部縄文原体による刻み目・口唇斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
15 3	11	2	弥生	壺	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・赤色粒(～0.5mm)微量	良好	明褐/にぶい黄褐	外面沈線で区画された中に斜縄文・無文部ヘラミガキ・赤彩/内面ナデ・ヘラナデ	
15 1	一括	1	土師器	高台杯	—	7.2	1/1	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量	良好	橙/黒	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
15 2	一括	1	土師器	杯	—	4.6	3/4	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量	良好	橙/黒	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
15 3	一括	1	土師器	甕	—	6.8	1/1	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・小石粒(～1.0mm)微量	良好	明赤褐/黒	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
15 4	一括	8	弥生	鉢	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量	良好	橙	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
15 5	一括	6	弥生	壺	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量	良好	にぶい黄褐	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
15 6	一括	3	弥生	鉢	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量	良好	黒褐/褐	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
15 1	1トレンチ	3	土師器	杯	11.8	1/1	4.6	1/1	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量・小石粒(～1.0mm)微量	良好	明赤褐/橙	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
15 2	1トレンチ	2	カワラケ	小皿	(12.7)	1/3	6.0	1/1	—	白色粒(～1.0mm)微量・石英(～0.5mm)微量・金雲母粒(～0.5mm)微量・小石粒(～1.0mm)微量	良好	にぶい黄褐/暗褐	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
15 3	1トレンチ	3	土師器	高台杯	—	(6.4)	3/4	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量	良好	にぶい黄褐/黒	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
15 1	2トレンチ	6	土師器	杯	(10.6)	1/6	(6.6)	1/6	(2.6)	黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)微量	良好	橙	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
15 1	3トレンチ	2	土師器	杯	—	6.6	1/1	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量	良好	褐	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
15 2	3トレンチ	5	須臾器	高台付杯	—	(9.0)	1/8	—	—	黒色粒(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)微量	良好	灰白	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
15 3	3トレンチ	3	土師器	杯	—	(6.2)	1/4	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量	良好	橙	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
15 4	3トレンチ	3	瓦	平瓦	現存長(10.0)	幅(4.9)	—	厚さ2.5	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量	良好	橙	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
15 5	3トレンチ	1	鉄製品	釘	現存長(8.2)	幅	—	厚さ0.55	—	白色粒(～0.5mm)微量・赤色粒(～0.5mm)微量	—	—	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	206g

山倉前畑遺跡（第2地点）セ499

図番号	出土地点 遺構	注記	種別	器種	口径 残存	底径	底径 残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整・特徴	その他
18 1	001	一括	弥生	鉢	(18.6)	3/4	6.2	1/1	10.5	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)少量	良好	明褐	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
18 2	001	16	弥生	壺	—	—	—	—	—	白色粒(～1.0mm)少ない・黒色粒(～0.5mm)少量・石英粒(～0.5mm)微量	良好	にぶい黄褐	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
18 3	001	3	弥生	壺	—	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.2mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量・赤色粒(～0.5mm)微量	良好	橙/黒褐	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
18 4	001	1	土師器	高杯	18.0	1/1	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)少量・小石粒(～5.0mm)微量	良好	赤褐	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	
18 5	002	7	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	白色粒(～1.0mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・赤色粒(～1.5mm)微量・小石粒(～3.0mm)少量	良好	橙	外面口縁側端部縄文原体伸張による刻み目・口唇中央斜縄文/内面ヘラミガキ・赤彩	

山倉前畑遺跡 (第2地点) セ499

図番号	出土地点 遺構	注記	種別	器種	口径 残存	底径 残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整・特徴	その他
18 6	002	17	土師器	甕	—	(8.0)	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)微量	良好	明褐/にぶい黄褐	外面ヘラナデ/内面ナデ・ヘラナデ	
18 7	003	1	弥生	鉢	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量	良好	にぶい黄褐/明褐	外面口縁部羽状細文めぐる/内面ヘラミガキ・赤彩	
18 8	003	18	弥生	壺	—	—	—	—	白色粒(～1.0mm)微量・石英粒(～0.5mm)微量	良好	赤褐	外面折り返し口縁・口唇部斜細文めぐる・口縁部羽状細文めぐる・無文部ヘラミガキ・赤彩/内面ヘラミガキ・赤彩	
18 9	003	1,2,11,26,28	弥生	壺	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・赤色粒(～1.0mm)微量	良好	明赤褐	外面口縁部上平平行沈線で区画された中羽状細文めぐる・下部には連続変形文で区画された斜行細文めぐる・無文部・赤彩/内面ナデ・ヘラナデ・器面状態不明瞭	口縁・底部全て欠
18 10	003	21	弥生	甕	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)少量	良好	明褐	外面口縁部ヘラ状工具による刻み目・ナデ/内面ナデ	
18 11	003	23	縄文	深鉢	—	—	—	—	白色粒(～2.0mm)少ない・黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)微量・金雲母粒(～1.0mm)少量・小石粒(～2.0mm)少量	良好	黄褐	外面口縁部凹隅状の把手・上方・凹状に凹み・肩間に列点状に刺突文/内面ナデ・口縁下半部に凹線めぐる	
18 12	003	44	縄文	深鉢	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)微量・小石粒(～6.0mm)微量	良好	明赤褐	外面RLの斜細文施文後、沈線内を磨り消す/内面ナデ	
18 13	003	29	縄文	深鉢	—	(9.0)	—	—	白色粒(～1.0mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～2.0mm)少ない・小石粒(～3.0mm)少量	良好	褐/黒褐	外面ナデ/内面ナデ	
18 14	003	24	土師器	高台杯	1/3	6.8	—	(5.7)	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・赤色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)少量	やや不良	褐/灰黄褐	外面口クロ調整/内面口クロ調整	
18 15	004	34.5	土師器	甕	—	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)少ない・赤色粒(～0.5mm)微量・小石粒(～2.5mm)少量・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)少量	良好	明褐	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケズリ/内面口縁部ヨコナデ・体部ヘラナデ	
18 16	004	1	縄文	深鉢	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)微量・赤色粒(～2.0mm)微量	良好	灰黄褐	外面RLの斜細文施文後、沈線内を磨り消す/内面ナデ	
18 17	005	28	弥生	鉢	—	—	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量	やや不良	黄褐	外面口唇部斜細文めぐる・口縁部S字状結節文で区画された羽状細文めぐる・無文部ナデ・ヘラナデ/内面ヘラミガキ・赤彩	
18 18	005	25	弥生	壺	—	—	—	—	白色粒(～2.0mm)少ない・黒色粒(～1.0mm)少量・石英(～1.0mm)微量	良好	明赤褐	外面折り返し口縁・口縁部羽状細文めぐる・下腹部斜細文原体による刻み目・無文部ヘラミガキ・赤彩/内面ヘラミガキ・赤彩	
18 19	005	22	縄文	深鉢	—	—	—	—	赤色粒(～2.0mm)微量・小石粒(～1.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)少量	良好	にぶい黄褐	外面RLの斜細文施文後、口縁部細文を磨り消す/内面ナデ	
19 20	006	86	土師器	杯	17.0	6.0	—	5.7	黒色粒(～0.5mm)微量・赤色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)少量・白色粒(～0.5mm)少量	良好	にぶい黄褐	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケズリ/内面口縁部ヨコナデ・体部ヘラナデ	器面状態不良。被熱・激しく受けたか
19 21	006	62	土師器	杯	14.0	5.4	—	5.3	黒色粒(～0.5mm)微量・赤色粒(～1.0mm)微量・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)少量	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケズリ/内面口縁部ヨコナデ・体部ヘラナデ	
19 22	006	60	土師器	小型甕	16.4	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)少量・赤色粒(～4.0mm)微量・小石粒(～4.0mm)微量・石英(～0.2mm)少量・白色粒(～0.5mm)少量	良好	明褐	外面口縁部ヨコナデ・体部縦位のヘラケズリ/内面口縁部ヨコナデ・体部ヘラナデ	
19 23	006	1	土師器	杯	(11.6)	—	—	—	黒色粒(～1.0mm)微量・赤色粒(～1.0mm)微量・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)微量	良好	橙/明黄褐～黒褐	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケズリ/内面ヨコナデ	
19 24	006	33	土師器	甕	(16.0)	—	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)少量	良好	橙/にぶい黄褐	外面口縁部ヨコナデ・体部上平横方向のヘラケズリか/内面口縁部ヨコナデ	頸部が、コの字状に屈曲している
19 25	006	40	縄文	深鉢	—	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)少量・赤色粒(～1.0mm)微量・小石粒(～2.0mm)少量・石英(～0.2mm)少ない・白色粒(～1.0mm)微量・金雲母粒(～1.5mm)少ない	やや不良	暗褐	外面口唇部に凹線・口縁下に角押文/内面ナデ	
19 26	006	16	縄文	深鉢	—	—	—	—	黒色粒(～1.0mm)微量・赤褐色粒(～0.5mm)微量・小石粒(～1.5mm)微量・石英(～0.5mm)少量・白色粒(～1.0mm)少量	良好	明褐	外面LRの斜細文施文後、沈線内を磨り消す/内面ナデ	
19 27	007	1	カワラケ	小皿	(8.2)	(4.7)	—	(1.6)	赤色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)少ない	良好	にぶい橙	外面口クロ調整・底部回転糸切り離した後ナデ/内面口クロ調整	13世紀

山倉前畑遺跡 (第2地点) セ499

図番号	出土地点 遺構	注記	種別	器種	口径 残存	底径 残存	底径	底径 残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整・特徴	その他
19 28	007	2	カワラケ	小皿	1/8	1/8	(5.6)	1/8	—	(1.7)	赤褐色粒(～1.0mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)少量	良好	にぶい黄橙	外面口クロ調整・底部回転系切り離し後ナデ／内面口クロ調整	13世紀
19 29	表探	表探	土師器	杯	—	—	5.4	1/2	—	—	黒色粒(～0.5mm)微量・赤色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)少量	良好	にぶい黄橙	外面口クロ調整・体部下端手持ちヘラケズリ・底部回転系切り／内面口クロ調整	

辰巳台遺跡群 (第2地点) セ500

図番号	出土地点 遺構	注記	種別	器種	口径 残存	底径 残存	底径	底径 残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整・特徴	その他
22 1	3トレンチ	3トレ	縄文土器	鉢	—	—	—	—	—	—	石英微粒・白色微粒を含む。	良好	表面→鈍褐色、裏面→鈍褐色＋赤彩	表裏共に条痕紋を施す。のち、表面のみ竹管列点紋。裏面赤彩。	早期後葉(茅山下層)
22 2	3トレンチ	3トレ	縄文土器	鉢	—	—	—	—	—	—	石英微粒・白色微粒を含む。	良好	表面→赤褐色、裏面→鈍赤褐色	表裏共に条痕紋を施す。のち、表面のみ赤彩。	早期後葉(茅山下層)
22 3	3トレンチ	3トレ	縄文土器	鉢	—	—	—	—	—	—	石英微粒・白色微粒を含む。	良好	表面→鈍赤褐色、裏面→鈍赤褐色	表面に竹管列点紋を施す。裏面は擦痕。	早期後葉(茅山下層)
22 4	3トレンチ	3トレ	縄文土器	鉢	—	—	—	—	—	—	石英微粒・白色微粒を含む。	良好	表面→赤褐色、裏面→鈍赤褐色	表面に竹管列点紋を施す。裏面は擦痕。	早期後葉(茅山下層)
22 5	1トレンチ	1トレ	縄文土器	鉢	—	—	—	—	—	—	鈍赤褐色粒を含む。	硬質	表面→赤褐色、裏面→褐色	表面に半条竹管平行紋を施す。	前期後葉(浮島D)
22 6	1トレンチ	1トレ	土師器	不明	—	—	—	—	—	—	白色微粒を含む。	良好	表裏ともに鈍褐色	表面はヘラ状工具による削り、のち、ナデ調整。貫通孔を有する。	土師期か(不詳)

菊間遺跡群 (深道地区C地点) セ501

図番号	出土地点 遺構	注記	種別	器種	口径 残存	底径 残存	底径	底径 残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整・特徴	その他
25 1	1トレンチ	1,2	弥生	甕	21.5	1/1	7.8	1/1	—	23.0	黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)微量	良好	灰黄褐	外面口唇部輪軸み痕部縄文原体による刻み目・ナデ・ヘラナデ／内面ナデ・ヘラナデ・体部下端強いヘラナデ・ヘラミガキ	
25 2	1トレンチ	1	縄文	深鉢	—	1/4	(8.4)	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)少量・赤褐色粒(～1.5mm)微量・小石粒(～1.5mm)少ない・石英(～1.0mm)微量・白色粒(～0.5mm)微量	良好	明赤褐	外面ナデ／内面ナデ	
25 3	1トレンチ	1	弥生	壺	—	1/4	(6.0)	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)微量・小石粒(～2.5mm)少ない・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)少量	不良	明赤褐／黒褐	外面ヘラナデ／内面ナデ	
25 4	1トレンチ	1	土師器	高杯	—	—	—	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)微量・赤褐色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)少量	良好	にぶい赤褐	外面粗いヘラミガキ／赤彩／内面ヘラナデ	口縁・底面全て欠
25 5	2トレンチ	1	弥生	甕	—	—	—	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)少量・白色粒(～0.5mm)微量	良好	灰黄褐	外面口唇部ヘラ状工具による刻み目／内面ナデ／ヘラナデ	
25 6	2トレンチ	1	土師器	甕	—	—	—	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)微量・赤褐色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)微量	やや不良	明褐	外面ヘラナデか・器面状態不良／内面ナデ・ヘラナデか・器面状態不良 底部に1.9×0.2×0.1cmの研削痕あり。底部の破片を砥石として転用か	
25 7	2トレンチ	1	鉄製品	釘	現存長 (4.0)	—	幅 0.4	—	厚さ 0.35	—	—	—	—	—	2.8g 上・下端部欠失
25 8	2トレンチ	1	鉄製品	U字形鉄製品	現存長 (5.8)	—	幅 2.3	—	厚さ 0.1	—	—	—	—	—	11.2g 上・下端部欠失
25 9	3トレンチ	1	須恵器	杯	—	—	—	—	—	—	緻密。黒色粒(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)微量	良好	灰白	内外面回転ナデ	
25 10	4トレンチ	1	土師器	杯	—	—	—	—	—	—	石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)少量	良好	黒褐／黒	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケズリ／内面ヨコナデ・黒色処理	
25 11	4トレンチ	6	土師器	杯	(11.4)	1/3	5.2	1/1	—	(3.1)	黒色粒(～0.5mm)微量・赤色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)微量	良好	橙	外面口クロ調整・底部回転系切り／内面口クロ調整	
25 12	4トレンチ	3	土師器	小型鉢	—	—	(7.2)	1/4	—	—	黒色粒(～0.5mm)微量・赤色粒(～3.0mm)微量・小石粒(～2.0mm)微量・石英(～0.1mm)少量・白色粒(～0.5mm)微量	良好	褐	外面縦位のハケメ／内面ナデ	
25 13	4トレンチ	10	埴輪	円筒	—	—	—	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)微量・赤褐色粒(～3.0mm)微量・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)少量	良	橙へにぶい黄／明褐	外面縦位のハケメ／内面ユビナデ・ナデ→斜位のハケメ	

菊間遺跡群（深道地区C地点）セ501

図番号	出土地点 遺構	種別	器種	口径 残存	底径 残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整・特徴	その他
25 14	4トレンチ	土師器	高杯	(18.0)	1/6	—	—	黒色粒(～0.5mm)微量・赤色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量・白色粒(～1.0mm)微量	良好	橙	外面縦位のヘラミガキ／内面縦位のヘラミガキ	
25 15	4トレンチ	鉄製品	釘	現存長 (3.4)	—	厚さ 0.5	—	—	—	—	—	6.9g 下半部欠失
25 16	表探	土師器	高杯	—	—	—	—	黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量・赤色粒(～1.0mm)微量	良好	赤褐	外面縦位のヘラケズリ・脚部ヨコナデ・赤彩／内面ヘラナデ	口縁・底部全て欠

山新城跡（辻地区第2地点）セ503

図番号	出土地点 遺構	種別	器種	口径 残存	底径 残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整・特徴	その他
27 1	1トレンチ	須臾器	高台杯	—	1/6	—	—	緻密・黒色粒(～0.5mm)微量・白色粒(～0.5mm)少量	良好	灰白	外面クロ調整・体部下端回転ヘラケズリ／内面クロ調整	
27 2	2トレンチ	瓦	丸瓦	現存長 (6.0)	—	厚さ 2.4	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少ない・赤褐色粒(～1.0mm)微量	良好	にぶい黄橙	凸面ナデ・右側縁部付近、幅5mmの面取り痕／凹面布目痕	右側縁部のみ残・右側縁部ナデ
27 3	2トレンチ	カワラケ	小皿	—	1/1	—	—	黒色粒(～0.5mm)微量・雲母粒(～0.5mm)微量・海綿骨針(1.0mm)微量・白色粒(～0.5mm)微量	良好	明黄褐	外面クロ調整・底部回転糸切り離し後ナデ・切り離し痕消そうとしている／内面見込み・ナデ	中世
27 4	2トレンチ	瓦	平瓦	現存長 (7.1)	—	厚さ 2.25	—	白色粒(～1.0mm)少量・黒色粒(～1.0mm)微量・赤色粒(～0.5mm)微量・小石粒(～3.0mm)	良好	橙	凹面布目痕／凸面縄目叩き痕（左燃り）	狭端面のみ残・狭端面ナデ
27 5	表探	瓦	平瓦	現存長 (11.9)	—	厚さ 2.7	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・赤褐色粒(～3.0mm)微量・石英粒(～0.5mm)微量・小石粒(～3.0mm)少量	良好	褐	凹面布目痕・右側縁部付近幅1.0cmの面取り／凸面縄目叩き痕（左燃り）右側縁部付近幅0.3cmの面取り	右側縁部のみ残・右側縁部ヘラケズリ
27 6	表探	瓦	平瓦	現存長 (7.5)	—	厚さ 2.1	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・赤色粒(～2.0mm)微量	良好	橙	凹面布目痕／凸面縄目叩き痕（左燃り）・右側縁部付近幅5mmの面取り	
27 7	表探	瓦	平瓦	現存長 (4.3)	—	厚さ 1.9	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・赤褐色粒(～2.0mm)少ない・石英(～0.5mm)微量	良好	明黄褐	凹面布目痕・右側縁部付近幅5mmの面取り／凸面縄目叩き痕・器面不明瞭	右側縁部のみ残・ヘラケズリ
27 8	表探	瓦	平瓦	現存長 (6.3)	—	厚さ 2.8	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・赤褐色粒(～1.5mm)微量・石英粒(～0.5mm)微量・小石粒(～1.5mm)微量	良好	にぶい黄橙	凹面布目痕（1cm幅に縦5本×斜5本）／凸面縄目叩き痕（左燃り）・右側縁部付近幅0mmの面取り	右側縁部のみ残・右側縁部ヘラケズリ
27 9	表探	瓦	平瓦	現存長 (16.5)	—	厚さ 3.0	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・赤褐色粒(～3.0mm)少量・石英(～0.5mm)微量	良好	明黄褐	凹面布目痕／凸面縄目叩き痕（左燃り）	側縁・端面全て欠
27 10	表探	瓦	平瓦	現存長 (8.7)	—	厚さ 2.7	—	白色粒(～0.5mm)少量・黒色粒(～0.5mm)微量・赤褐色粒(～1.0mm)微量・小石粒(～2.0mm)微量	良好	にぶい黄／灰	凹面布目痕／凸面縄目叩き痕（左燃り）	側縁・端面全て欠
27 11	表探	瓦	平瓦	現存長 (7.2)	—	厚さ 2.0	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・石英粒(～0.5mm)微量	良好	にぶい黄	凹面布目痕（1cm幅に縦6本×斜5本）／凸面縄目叩き痕（左燃り）	側縁・端面全て欠
27 12	表探	瓦	平瓦	現存長 (3.7)	—	厚さ 2.3	—	白色粒(～0.5mm)少量・赤褐色粒(～2.0mm)少量	良好	明褐	凹面布目痕／凸面縄目叩き痕（左燃り）	側縁・端面全て欠

山新遺跡（永津前地区）セ504

図番号	出土地点 遺構	種別	器種	口径 残存	底径 残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整・特徴	その他
29 1	2トレンチ	土師器	甕	—	1/3	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量・石英(～0.5mm)微量・小石粒(～3.0mm)微量	良好	灰褐／にぶい褐	外面ヘラナデ／内面ハケメ	
29 2	2トレンチ	土師器	小型甕	—	1/4	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)微量	良好	明赤褐	外面ヘラナデ／内面ナデ・ヘラナデ	
29 3	4トレンチ	土師器	小型甕	—	1/4	—	—	白色粒(～0.5mm)微量・黒色粒(～0.5mm)少量・石英(～0.5mm)微量	良好	橙	外面ナデ・ヘラナデ／内面ナデ・体部下端ヨビナサエ	



郡本遺跡群第15次 調査前状況（右奥の森が郡本八幡神社）



郡本遺跡群第15次 調査風景（北東から）



郡本遺跡群第15次 5トレ遺物出土状況（南西から）



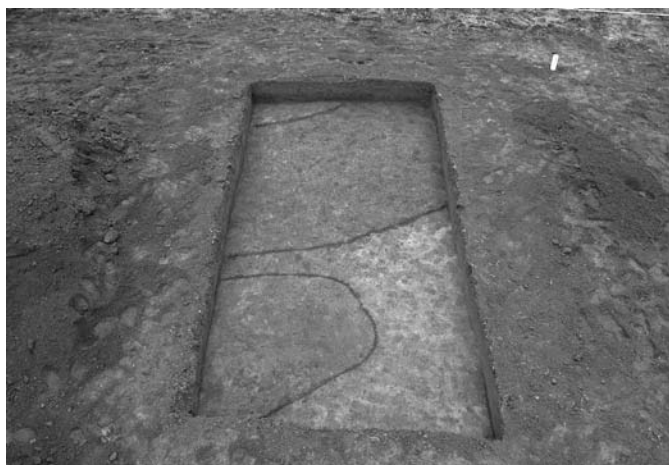
郡本遺跡群第15次 9トレ遺構確認状況（南から）



郡本遺跡群第16次 調査区近景



郡本遺跡群第16次 3（手前）・1（奥）トレンチSD-1検出状況



郡本遺跡群第16次 4トレンチ



郡本遺跡群第16次 本調査区近景



郡本遺跡群第16次 SD-1全景



郡本遺跡群第16次 SK-2人骨出土状況



君塚クワノ木古墳 調査全景



君塚クワノ木古墳 A-A'断面



君塚クワノ木古墳 B-B'断面



君塚クワノ木古墳 E-E'断面



市原城跡門前地区 調査前状況（北東から）



市原城跡門前地区 3トレンチ（東から）



市原城跡門前地区 3号 (北西から)



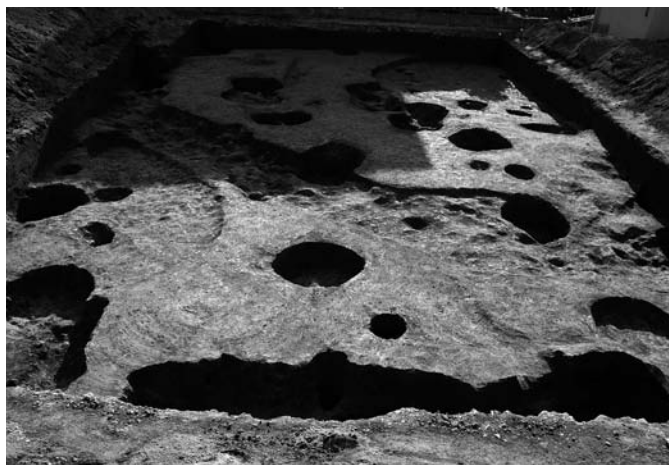
市原城跡門前地区 1号竪穴 (南東から)



市原城跡門前地区 調査状況 (北東から)



市原城跡門前地区 10号竪穴遺物出土状況 (東から)



市原城跡門前地区 5号掘立 (東から)



市原城跡門前地区 7号掘立 (南から)



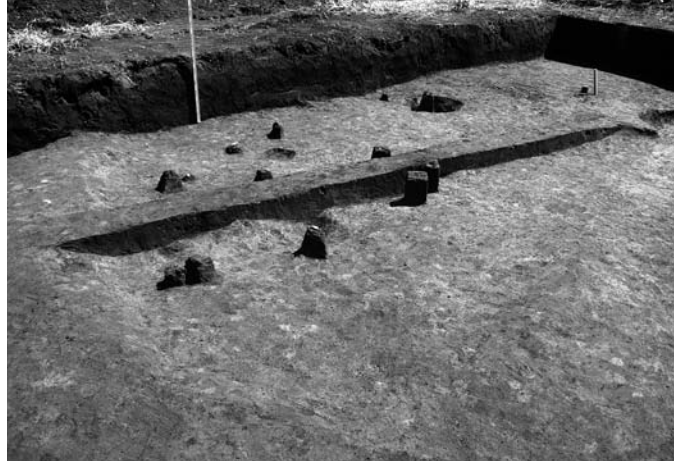
山倉前畑遺跡第2地点 全景 (北から 東半)



山倉前畑遺跡第2地点 全景 (北から 西半)



山倉前畑遺跡第2地点 1号遺物出土状況



山倉前畑遺跡第2地点 2号遺物出土状況



山倉前畑遺跡第2地点 3号遺物出土状況



山倉前畑遺跡第2地点 3号焼土状況



山倉前畑遺跡第2地点 6号遺物出土状況



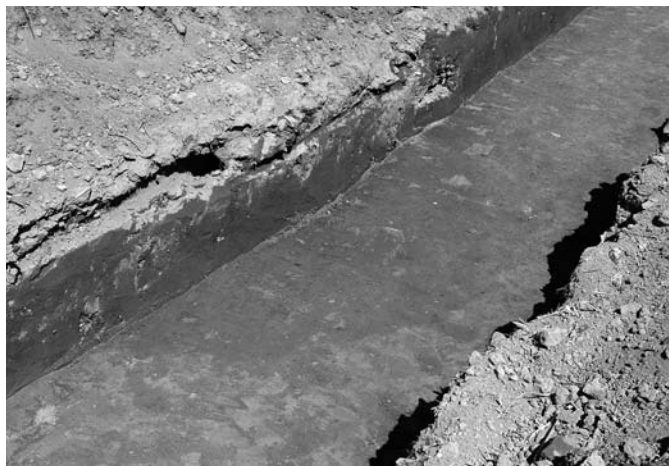
山倉前畑遺跡第2地点 全景（東から）



辰巳台遺跡群第2地点 調査前状況



辰巳台遺跡群第2地点 1トレンチ調査状況



辰巳台遺跡群第2地点 2トレンチ調査状況



辰巳台遺跡群第2地点 3トレンチ調査状況



菊間遺跡群深道地区C地点 東関山古墳・調査区全景



菊間遺跡群深道地区C地点 第1トレンチ



菊間遺跡群深道地区C地点 第4トレンチ 奥東関山古墳後円部



菊間遺跡群深道地区C地点 第5トレンチ



菊間遺跡群深道地区C地点 D-D'断面 左北野天神山古墳



菊間遺跡群深道地区C地点 第3トレンチ



市原城跡辻地区第2地点 第1トレンチ全景



市原城跡辻地区第2地点 第1トレンチ断面



市原城跡辻地区第2地点 第2トレンチ全景



市原城跡辻地区第2地点 第2トレンチ断面



山新遺跡永津前地区 調査前状況（北西から）



山新遺跡永津前地区 調査状況（北西から）



山新遺跡永津前地区 2トレンチ（北から）



山新遺跡永津前地区 3トレンチ（北から）

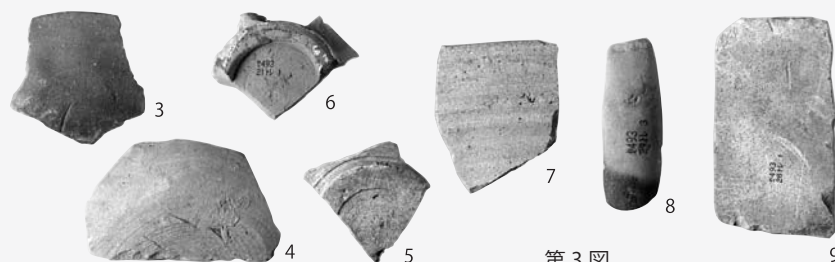
郡本遺跡群 第15次



1



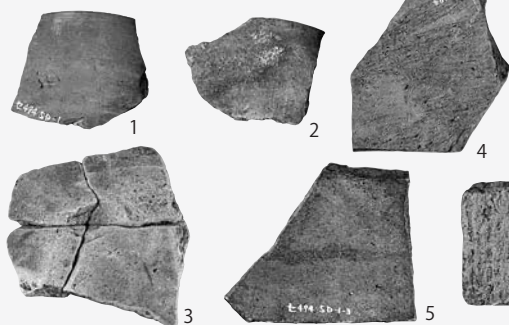
2



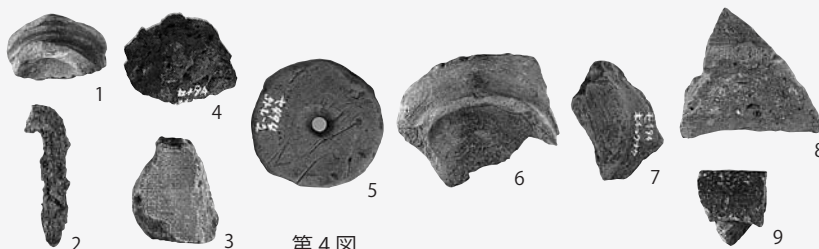
第3図

9

郡本遺跡群 第16次



第9図



第4図

第5図

実寸

君塚クワノ木古墳



1

市原城跡 門前地区



1号

3



1 トレンチ 第15図

1

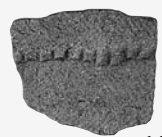


3号 第14図

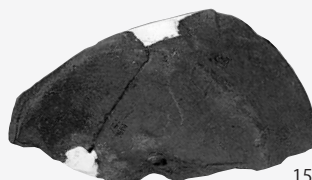
1



13



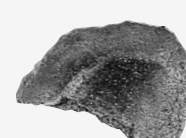
14



15



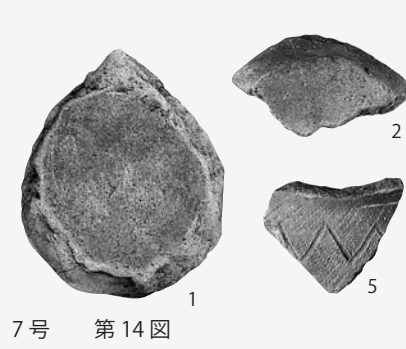
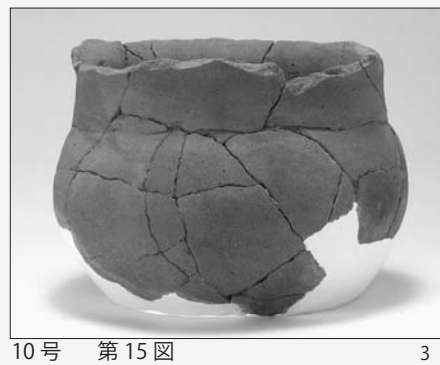
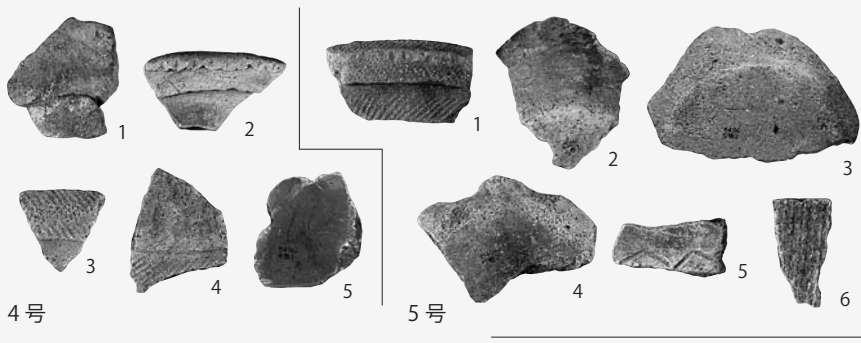
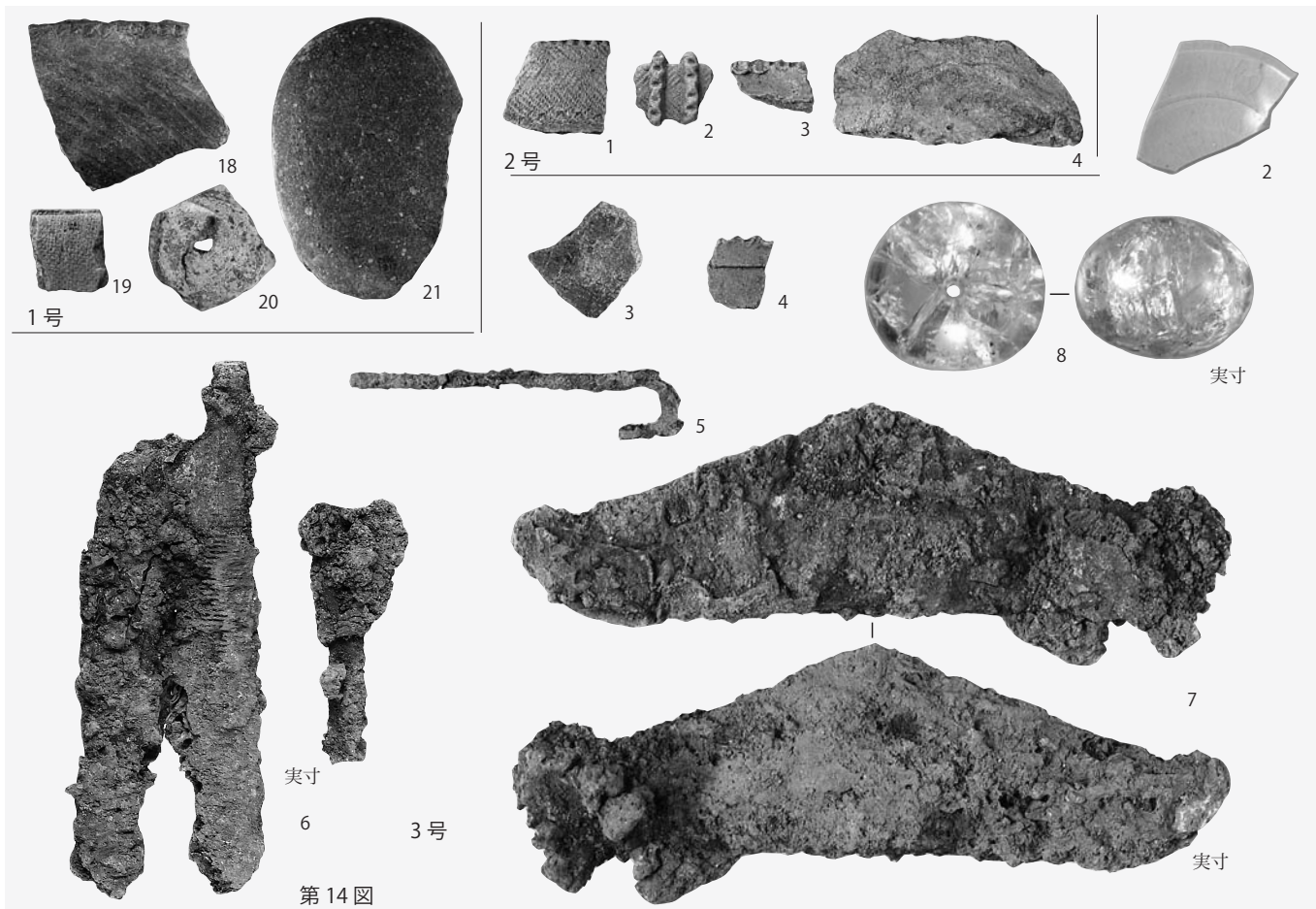
16

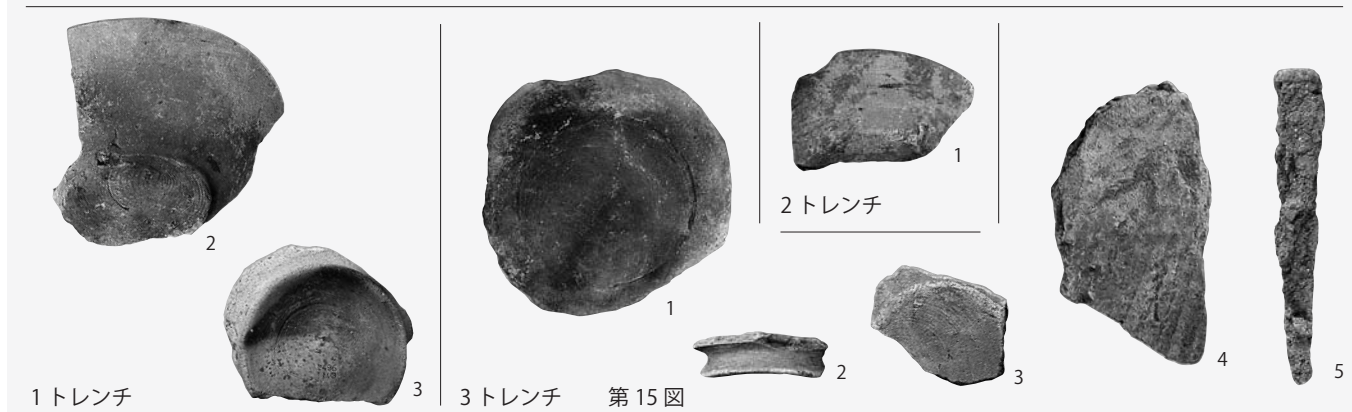
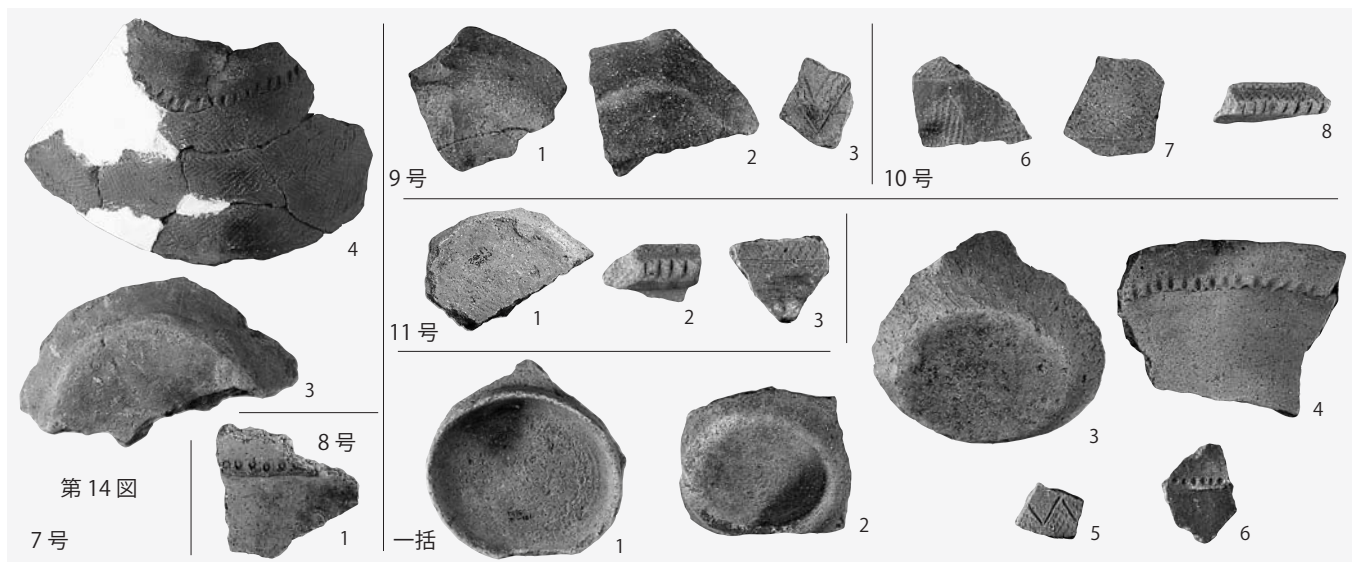


17

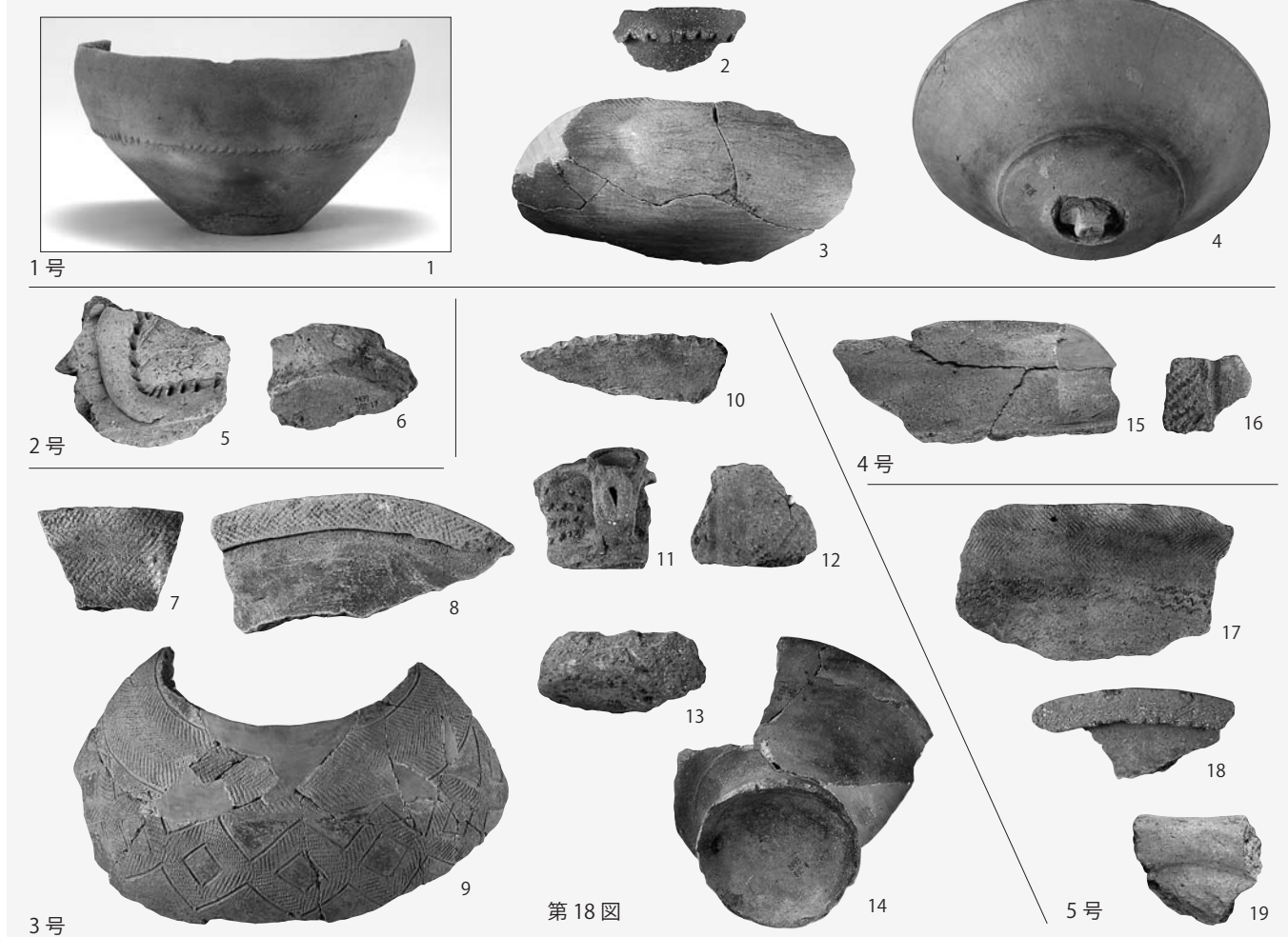
第13・14図

1号





山倉前畑遺跡 第2地点





報 告 書 抄 録

ふりがな	へいせい24ねんどいちほらしないいせきはくつちようさほうこく							
書 名	平成24年度 市原市内遺跡発掘調査報告							
副書名	郡本遺跡群第15次・郡本遺跡群第16次・君塚クワノ木古墳・市原城跡門前地区・山倉前畑遺跡第2地点・辰巳台遺跡群第2地点・菊間遺跡群深道地区C地点・市原城跡辻地区第2地点・山新遺跡永津前地区							
巻 次								
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書							
シリーズ番号	第27集							
編著者名	小橋健司・牧野光隆・北見一弘・近藤敏・小川浩一・田所真							
編集機関	市原市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 TEL 0436(41)9000							
発行年月日	2013年(平成25年)3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
こおりもと 郡本遺跡群 第15次	いちほらし こおりもと 市原市郡本1丁目237他	12219	セ493	35° 30′ 41″	140° 07′ 13″	20120228 ～ 20120312	264㎡／ 2640㎡ 確認調査	宅地造成
こおりもと 郡本遺跡群 第16次	こおりもと 市原市郡本5丁目101	12219	セ494	35° 30′ 58″	140° 07′ 22″	20120308 ～ 20120315	48㎡／ 480.11㎡ 確認調査 24㎡本調査	個人住宅建設
きみづか 君塚 クワノ木古墳	きみづか 市原市君塚5丁目14-4	12219	セ497	35° 31′ 15″	140° 05′ 53″	20120522 ～ 20120528	28㎡／ 283㎡ 確認調査	出羽三山塚整備
いちほらしじょう 市原城跡 もんぜん 門前地区	もんぜん 市原市門前2丁目505	12219	セ496	35° 31′ 08″	140° 07′ 38″	20120529 ～ 20120615	26.5㎡／ 265.89㎡ 確認調査 86.4㎡本調査	個人住宅建設
やまぐらまえはた 山倉前畑遺跡 第2地点	やまぐら みやまえ 市原市山倉字宮前 508番3・509番3	12219	セ499	35° 28′ 53″	140° 07′ 51″	20120801 ～ 20120810	118.5㎡ 本調査	個人住宅建設
たつみだい 辰巳台遺跡群 第2地点	きくま むかいばら 市原市菊間字向原 2897-38	12219	セ500	35° 31′ 47″	140° 08′ 43″	20120817 ～ 20120821	30.9㎡／ 309.47㎡ 確認調査	個人住宅建設
きくま 菊間遺跡群 ふかみち 深道地区 C地点	きくま ふかみち 市原市菊間字深道 1974-1	12219	セ501	35° 32′ 23″	140° 08′ 43″	20120824 ～ 20120831	99.9㎡／ 999.38㎡ 確認調査	個人住宅建設
いちほらしじょうあと 市原城跡 つじ 辻地区第2地点	いちほらし つじ 市原市市原字辻 23-2の一部	12219	セ503	35° 31′ 11″	140° 07′ 33″	20120910 ～ 20120914	40.6㎡／ 406.27㎡ 確認調査	個人住宅建設
さんしん 山新遺跡 ながつまえ 永津前地区	あねさき 市原市姉崎2580-1	12219	セ504	35° 28′ 40″	140° 03′ 30″	20120918 ～ 20120926	75㎡／ 750㎡ 確認調査	福祉施設建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
郡本遺跡群 第15次	包蔵地	中世	中世台地整形区画・ 方形土坑19基・ ピット11基	カワラケ・陶磁器・ 砥石・管状土錘	調査区北半に中世後期の台地整形区 画と遺構の集中を確認した。
郡本遺跡群 第16次	包蔵地	奈良・平安・中世	奈良平安時代溝2条、 中世小竪穴1基・ 土壌4基、 時期不明土坑2基	弥生土器、奈良・平安時代 土師器・須恵器・瓦・ 青銅製鈴・カワラケ・ 陶器・鉄製品・人骨	奈良・平安時代の南北方向に伸びる 溝2条は並行する可能性がある。 中世には墓域であったとみられる。
君塚 クワノ木古墳	古墳	近世	三山塚1基	土師器・銅銭	江戸期の塚改修に伴うと思われる寛 永通寶を検出した。
市原城跡 門前地区	城跡 包蔵地	弥生・平安・中世	弥生後期竪穴建物跡5棟・ 溝状遺構1条 平安時代竪穴建物跡1棟・ 掘立柱建物跡3棟 古代～中世土壌墓1基	弥生土器、平安時代土師器・ 瓦、カワラケ・ 鉄・火打金・釘・数珠玉	上総国府推定地の調査で平安期の遺 構を確認した。古代末から中世初頭 の土壌墓の副葬品として握り鋏と火 打金が出土した。
山倉前畑遺跡 第2地点	包蔵地	弥生・古墳・中世	弥生後期竪穴建物跡2棟 古墳後期竪穴建物跡2棟 中世竪穴1基	弥生土器 古墳時代土師器 平安時代土師器	養老川右岸の低位段丘面で、弥生後 期と古墳後期の集落域を確認した。
辰巳台遺跡群 第2地点	包蔵地	縄文・古墳	縄文早期炉穴1基 古墳前期竪穴建物跡2棟	縄文土器	開析谷を望む台地平坦面で、縄文早 期と古墳前期の居住域を確認した。
菊間遺跡群 深道地区 C地点	包蔵地	弥生・中世	弥生後期竪穴建物跡2棟 中世地下式坑1基	弥生土器 古墳時代土師器・埴輪 平安時代土師器	菊間古墳群下層の弥生後期居住域と 中世地下式坑を検出した。
市原城跡 辻地区 第2地点	包蔵地	中世	中世溝状遺構1条	奈良・平安時代土師器・ 須恵器・瓦 カワラケ・陶磁器	上総国府推定地の調査で中世の大規 模な溝を検出した。古代道路と重複 する可能性がある。
山新遺跡 永津前地区	包蔵地	弥生・古墳	弥生後期土坑2基 古墳前期溝状遺構1条	弥生土器 古墳時代土師器	姉崎地区の沖積低地において弥生後 期と古墳前期の遺構を検出した。
要約	<p>今年度は8遺跡を調査し、うち7遺跡と昨年度調査の2遺跡について報告した。</p> <p>郡本遺跡群では、15次調査で中世遺構の広がりを確認し、16次調査で奈良・平安時代の溝状遺構と、中世土壌墓を検出した。君塚クワノ木古墳では、塚に改変された状況を把握できた。市原城跡門前地区では、弥生後期の竪穴建物跡5棟・溝跡1条、平安時代の竪穴建物跡1棟・掘立柱建物跡3棟、平安末から中世初頭の土壌墓1基と狭い範囲ながら高密度の遺構群を調査した。土壌墓からは握り鋏と火打ち金が出土した。山倉前畑遺跡第2地点では弥生後期と古墳後期の竪穴建物跡各2棟と中世の竪穴遺構を調査した。辰巳台遺跡群第2地点では、縄文早期炉穴1基と古墳前期竪穴建物跡2棟を確認した。菊間遺跡群深道地区C地点では、菊間古墳群下層の弥生後期集落跡と中世地下式坑を検出した。市原城跡辻地区第2地点では古代道路を踏襲する可能性がある大規模な中世溝跡を確認した。山新遺跡永津前地区では標高の低い地点で弥生後期と古墳前期の遺構を確認した。</p>				

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第 27 集

平成24年度 市原市内遺跡発掘調査報告

平成25年3月25日 発行

編集 市原市埋蔵文化財調査センター
千葉県市原市能満 1489
TEL 0436(41)9000

発行 千葉県市原市教育委員会
市原市国分寺台中央 1-1-1
TEL 0436(22) 1111

印刷 株式会社 正文社
千葉市中央区都町1-10-6